狹名所圖會 前編 二

JL 4
3376
2

呂 門 弘 2 2 0 2

ル 4 3376 2

尾張名所圖會卷之二

目録 愛智郡

枇杷嶋　枇杷島橋
青物問屋　牛頭天王社
白山權現社　海福寺
法藏寺　西願寺
淺間社　覺鳳寺
武島天滿宮　稻生街道
高田本坊　堀川惣河戸
五條橋　金剛寺
白山社　清水寺
興善寺　淨教寺
廣井八幡宮　同傘鉾祭
琵琶鳥の古事　寶周寺
清音寺　花の木
林貞院　山神社
正覺寺　慶榮寺
興西寺　明倫堂
圓頓寺　材木店
延米會所　梵天并切紙燈籠の図
天王祭造り物の図　笹嶋燒
淺間社　陳元贇寓居跡
圓通寺
延命院

枇杷嶋川 八幡社

伊藤玄澤施藥
廣井女王古墳
南寺町の全図
徳林寺
長圓寺
堀川の櫻
八幡宮
五百羅漢
長久寺
鶏藥師
烏が池の図
觀音院
善光寺
福泉寺
東光寺
養林寺
大乘院
八角堂
鶯谷
弘法井
相應寺
八王子社
松山天道宮
平田院
圓明寺
高岳院
藥品會
大林寺
誓願寺
天道社
聖運寺
織田丹波守の傳
了義院
神明社
亀尾清水
山吹谷
建中寺
教順寺
東充寺
永林寺
光明寺
西光院
牛頭天王社
日置
無三殿間
東界寺
藏王權現社
七尾天滿宮
養念寺
情妙寺
養蓮寺
舍笑寺

永安寺
法華寺
白山社
富士權現社
小袖塚
產前產後二毋散
政秀寺
清淨寺
槁の寮
万松寺
長榮寺
崇覚寺
長榮寺
常徳寺
大圓寺
瑠璃光寺
光圓寺
聖徳寺
平手政秀信長公へ諫書と上る図
柳生兵庫居住地
富士見原
白雪稲荷の図
九老尚歯會の図
東本願寺掛所
古渡古城
本立寺
妙蓮寺
片岡源五右衛門墓
誓願寺
圓輪寺
守綱寺
勝鬘寺
東泉院
醉雪樓
春日社
榮國寺
照遠寺
法華寺町
禪寺町
全図
淨念寺
繁昌院
白林寺
梅香院
隠里

枇杷島

琵琶島とも書けり川の東と西枇杷島町とより二つ村まとをすべて西枇杷島といふ往昔師長公井戸田の里に謫居しまひし時里ゐ長描江何某の娘よ訓初せしめに公井戸田の里に謫居しまひし時里ゐ長描江何某の娘よ訓初せしめに公薨ハ井戸田の条下に譲りぬ公帰洛の期ゐ及で御別をを深く惜こまり而所ゐ西ある土手野里まで慕ひ来こせ給へバ公も哀まに思しめし守本そ乃薬師ゐ来こ年頃ゐ訓させ玉へる白菊の毫毫を御形見にあるべきとて生別却て死ゐ悲ゐ理ゐて彼女悲歎ゐ堪ず世を憂きものゐ思ひ移く吾身と恨こて一首の和歌と書捨こ側ある池に身を流め終に空こく朱ゐりう（池地のあるを今ハ畠の堀ぢひに昔旧姿と存こ要地と称す又同所西の方ゐ楊梅村に要害ゐ跡こて森林ゐ内に古塚ゐりう是彼女ゐ死骸を埋こ塚ゐりうに枇杷島ゐ称ハ此地枇杷ゐ多ゐりうに起るあるいハ彼女白菊ゐ毫毫を埋きゐ処ゐ称ハ此地ゐ多ゐりうに起るあるいハ彼女白菊ゐ毫毫を埋きゐ処ゐ称ハ此地を毫毫池とひ和ふ枇杷毫毫の音便も通へバ此ゐ多ゐの者ひこ多く毫毫丈字と用ひこそゐなるべこ

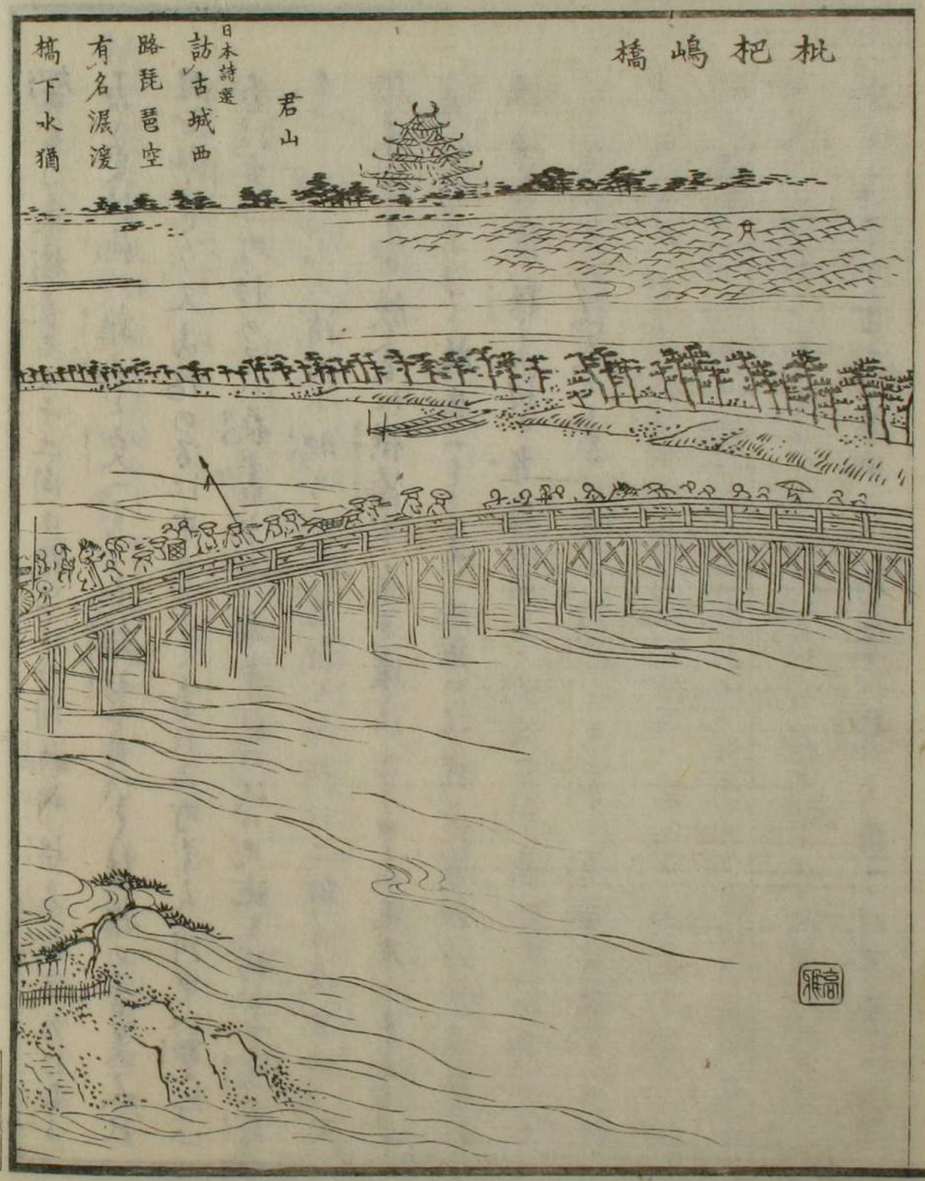
枇杷島橋　大橋ハ枇杷島村こ下小田井村の堺にあり小橋ハ下小田井村ゐりう

元和八壬戌年　國祖源敬公有司に命じて造らしめ給ふ國中ゐ一の大橋ゐて東西に二橋を架ゐり大橋長さ七十二間小橋二十七間杭梁高欄其外に彩まで更に他の雑木と交へざるゐ目を驚せり又橋のゐ中島こて南北六町ゐり川中へ築出ゐ而ゐ方三町程ゐ萩叢ゐて毎年秋ゐ比ハ尺地も残さず咲ゐ紅紫ゐ清流ゐ映ぜる尤奇観と此所に二軒ゐ茶屋ゐりて往来諸人ゐ飲食に供給を凡美濃路より中山道及び東西諸国への往来ゐ旅客ゐて旅宿ハ西國の諸侯方通行ゐ官道ゐ故往来常に能繁こ殊ゐ尚府ゐ西ゐる故ゐ哂嗹ゐれバ市にお入ゐ商人をはじめ四方ゐ諸人も多ゐ橋ゐ輻湊こて実ゐ肩摩ゐ賑ゐ又橋上ゐりうこ四方を望ゐバ信州ゐ御嶽駒ヶ嶽加州ゐ白山江州ゐ伊吹山勢州ゐ養老山金華山恵那山三州ゐ様模山及び飛越二州ゐ山こまでゐべて八ヶ國ゐ峻秀四至ゐ内に尽き近く毫毛を数ゐべ金城ゐりう雲表に聳え府下ゐ万家も一瞬

枇杷嶋橋

君山

日本詩選
詰古城西
路琵琶空
有名渡渡
橋下水猶



寫四絃聲



舍咕

贈野集
を詠ず

鬼嶽
さむき
降せうる

風瑩

人脚ふ
近ふく
家の
沙も
れ

小入又西北八本宮山小牧山ゝ等余れ扞凜まで
の麓夏の深〳〵秋は月冬の雪まで四季れ眺めを
駿人詞客も此境に到らねばあら〳〵て又類ひなき勝景ぞ

新川集　琵琶橋歩ノ月　岡田新川
琵琶橋畔夜如何　岸ノ幘披ノ襟好亟過　蘋末軽風生ニ曲
浦ニ雲端素月上ニ層柯ニ紅闌影落長流水白芦声飄数
疊歌不ノ通人間仙路隔乗ノ槎直欲ノ到ニ銀河ニ

卧游園詩集　琵琶橋　延壽道人
城外逢ノ人識面稀十年空負舊庭闈官橋影射ニ滄波
動旅雁声凌ニ碧落ニ飛松下長堤通ニ大道ニ天涯斜日照ニ
寒衣蓬莱一路行ノ将ノ近五色祥雲迎ノ錫帰

社盟詩載　琵琶橋上對ニ斜曛ニ極ノ目徘徊思由ノ群玉府千重高嶺
雪金城十里暮雲天翠松翁鬱雙行列緑水滾滾両
派分好景新詩成未ノ去蹄鐘點〻隔ノ林聞

怨復怨兮江水頭琵琶白蘋幾回秋幽衷不ノ得ニ紘中
訴山兮河凪向ノ客愁　秦滄浪

織月如眉照ニ浅汀ニ相公曾此別ニ娉婷ニ錚〻驟雨橋頭
過似ノ向ニ琵琶絃上ニ聽ニ　松田常春

琵琶橋晩望　村井泰翁
官道二三里外脊尭暮色如ノ描淡烟東岸西岸斜日



長橋短橋楊柳垂邊鷺宿漣漪動處魚跳滿眸皆是
詩料不レ似俳徊徊市朝_
月夜琵琶橋酔歸_奥田桐園
橋多西郡双龍影水孕_中洲_白練光酔歩歸来涼可
掬蠻姑声裏月微危
琵琶湖を云く

よの統けもさ船よ淀うも河水の水も世々にあるうて
ゆき交れなるまと思ひつゝ波紋よりの統ハもえめやも
岩倉具選卿

徃きをあふくうろれ泉をもてきくの奈よ淀うもあるまゝに
ふの統ハもえめやも
季鷹

琵琶湖の水ハ淀川を一名小田井川と尾張風土記にのせ
大井田川ハ刈萱あるより
検校花の一

軽舟ハ濃州恵那郡苅竹村よりおこり大河となりて
水源三ツありて
道直

琵琶湖流れいもをゝくゝ夕さゝみ
五筑坊

ア舟ふまりに日ぬれある河系うる
士朗

妻添き色やもろ緑木の麓は富士
秋鷹

波形に千鳥なく砂や和田浜
沙彦

枇杷嶋川

枇杷湾指れ下と淀川
大井田川ハ刈萱あるより

一ツハ濃州恵那郡苅竹村よりおこり因士伎彩谷と云玉野勝川味

流ゝて茶人ゝゞ珠に比水を賞美せり
一名小田井川と尾張風土記にのせ

流川

平生ハ清冷のも
時ハ橋上に多くれ大石を置き夜ハ堤
て水の増減を知るに依りて按ずる
て永も通ハざるハ那古野合戦
信長記ふの文意ふても多くにも

青物市問屋

橋の西詰屋町数町の
の二人ゝと創業せり
由の委しきるハ菜蔬朝
市記に譲りて茲に略ス

物まて新と重ひ奇と競ひ南國の名産ハそもさゝ之

一年中の朝ゞに市をなす四時の菜蔬干
の品類甚多くして枚挙に遑ざれバまづ
の所産の地名ゟ下に挙て形状風味までを詳ふ示す

美濃三河伊勢後
宮重方領の大
根を初の名産

河原大坂の産物まで

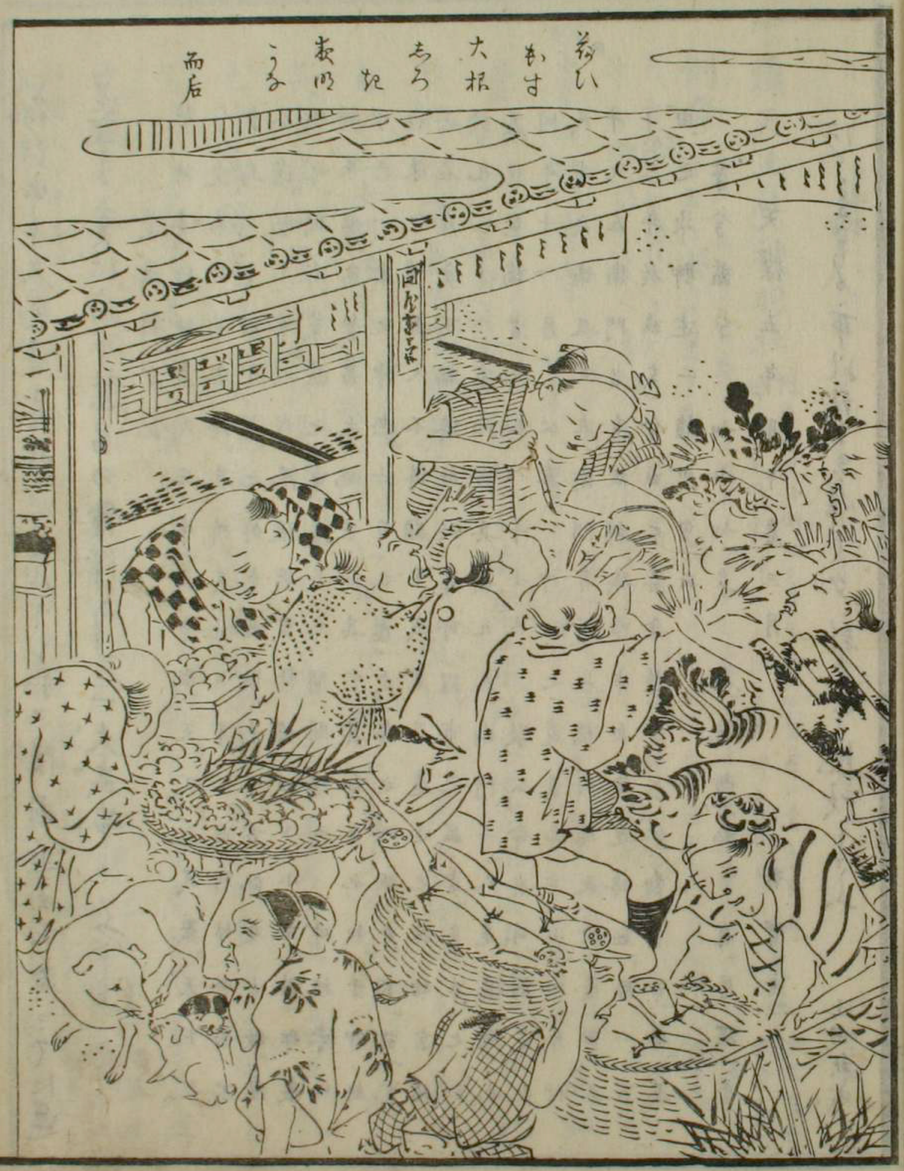
湊ひてあるゆる万物をゝに山となるせ
を

かく万物を引例けバ世に万物
四産としいて由なき様なれ

買おしの商人蟻のごとく集ゝを暫時に

青物市





若(ふる)い出(だ)し又馬車ふも移(うつ)して府下を初め隣國近江三都までに運送する實に府下繁昌の餘澤(よたく)ふりて一大盛事(たいせい)ならずや

菜蔬朝市記

繫辭傳(けいしでん)に曰神農氏日中(ひなか)に為(な)り市(いち)を致(いた)し天下之民(てんかのたみ)を聚(あつ)め天下之貨(てんかのたから)を交易而退各得(おのおのえ)其所(そのところ)其他九市三市則姑舍而不載(のせず)鳥(とり)皇國令式之外市之散(ちる)見于古記及古歌者不(ず)遑(いとま)歴挙(れききょ)之我尾張國琵琶橋西下小田井蚯蚓(みみず)塲云神祖嘗曰街之間有菜蔬之市慶長年間開(ひら)塲(ば)云其言(いう)其為(な)市也起于卯終于巳一歳之中無一日之虚交易之喧砥声不(ず)能(よく)震将来應(まさに)為繁昌之地果如(はたして)其言往来之填盈人不(ず)得(え)顧至(かえりみるにいたら)我尾及遠近之品物凉(すず)播之名産莫(なし)不(ず)輻湊(ふくそう)於此實可謂市之盛者矣市之行頭凡三十八家而市兵衛九左衛門二人是其魁也蓋琵琶橋者元和八年壬戌同年十一月公奉(こうほう)神祖之遺意命(めい)下小田井村民市兵衛及九左衛門者護(まも)此橋因賜永世復田若干(そこばく)九左衛門者有(あり)故辞(じ)職(しょく)唯市兵衛連綿勤(つとめ)職(しょく)二百十三年於茲(ここに)矣今茲之春余遊于此地観其市懸(かけ)其由之次聊述(のべ)二韻四句云

菜分蔬分　如山如阜　無龍断(ひとりじめ)私　有恩澤(おんたく)普

天保五年甲午春三月　香實老人

又遥(はるか)なる市比林(いちひばやし)よ多能(たのう)て久(ひさ)しき風次(ふうじ)なり

上田秋成

泊秋集

市人よこの笠(かさ)うり呈(てい)せ

くろ成

牛頭天王社 神明社

例祭　正月廿日神(かみ)ふを奏(そう)す古例ある事(こと)ハ天照皇大神宮(てんしょうこうたいじんぐう)の行事(ぎょうじ)に譲(ゆず)りて畧(りゃく)す六月十日祇(ぎ)ふあり

を音絶(おとたえ)之又八月十日神(かみ)ふを奏(そう)す古例ある事ハ祭(まつり)ハ天照皇大神宮(てんしょうこうたいじんぐう)の行事(ぎょうじ)に委(ゆだ)しまつるハ祭猴(さるひき)祭(まつり)ハ尾陽年中行事(びようねんちゅうぎょうじ)に詳(つまびらか)なりて茲(ここ)に畧(りゃく)す十一日車樂(だんじり)四輌を引(ひき)渡(わた)す人形(にんぎょう)の機(からくり)ハ今(いま)絶(たえ)て無(なし)

松峯山清音寺　東枇杷嶋(ひわじま)にあり　普明(ふみょう)寺末(じまつ)　祠官(しかん)青木氏

正眼寺未創建の年記詳(つまびらか)ならず

堂　師長(もろなが)の木像(もくぞう)にて故(ゆえ)ありて師長(もろなが)と称(しょう)す　本尊　阿弥陀如来(あみだにょらい)　久保都の作(さく)　薬師

松峯山清音寺

堂　師長(もろなが)の木像(もくぞう)にて故(ゆえ)ありて師長(もろなが)と称(しょう)す　縁起(えんぎ)云(いう)蚊(か)発薬師(はつやくし)ハ来(きた)ハ弘法大師(こうぼうだいし)一刀一礼の御作師長(もろなが)守本尊(ほんぞん)とし公(きみ)の愛(あい)妃(ひ)乙女(おとめ)の法号(ほうごう)清音院松月(しょういんしょうげつ)薫照大姉(くんしょうだいし)によりて清音寺(しょうおんじ)と号(ごう)すともいへり

天台宗七堂伽藍の灵場(れいじょう)なりしが應永年中の洪水に堂宇流亡(どううりゅうぼう)一事録(いちじろく)年中ハ又焼失(しょうしつ)せしが如(ごと)来(らい)のミ依然(いぜん)としてまします霊徳(れいとく)其(その)正眼寺八世の宣雲(せんうん)周和尚(しゅうおしょう)書(しょ)をもて中興(ちゅうこう)今此(いまこの)寺に改(あらた)むる　文(ふみ)も器(うつわ)も皆(みな)古(ふる)し公建久三年壬子二月九日と(ここのかと)ふ

霊寶(れいほう)師長(もろなが)の画像(がぞう)一幅　建久(けんきゅう)の比(ころ)の古画(こが)ありて五彩(ごさい)も尽(つく)さず(ず)ありけれバ(ば)来



五のきのごんげん

極楽現

志ほな某田中納言をして撰写せしめ賛に
よつの秋輔よりうたへり 白菊は
ふたゝびかへる大まへつ君 秋輔よりうたへり
琵琶の圖一幅 是も古画ありしを近年書井正角模写一図上に自ら作曲を記す
文をはれハ暑しねの比琵琶希代の名物にて古ハ奏曲ハ此庫ふ
納まりありしとぞ現存せり
今ハ神あそびうたひ現存せり

八幡社 清音寺の東にあり永享二巳丗年の創建なり 本社 応神天皇左ハ神功皇后右ハ武内宿禰
金毘羅社 未社 神明社 天王社 稲荷社
弁天社

例祭 八月十五日 祈當社ハ專ら八幡と通稱して尊ひ諸願を
尊のそなたらるゝも祈願まうしハ必ず実験著しけるとて尊を仰ぐ人絶ず

伝仰せり ○祠官 神戸氏

白山權現社

押切町の北側にありて俗に極の権現の社と称す別当ハ極楽山福満寺と称して
文明九年 南禅の太守斯波治部大輔義廉清次にを修の時加州白山権現を勧請ありし
に或夜夢中に老尼来りて我ハ白山の霊也汝ハ速に此地を守護せんと告ぐ夢さめ夫より此社と勧請
すと是ぞ白山の神木なるべハ極楽現の称こゝに起る近年極楽すと思ひしハ誤なり ○西國の法度方疏鈔人
なり ○南社鰐口に正長二年九月九日の文字ありしを今ハ紛失して見ず ○西小社 脚を水潤きて風雨順ふ
ありしとぞ ○此社に休息ハ書院より西小社にあり 海東高僧妙心寺
未覚永十四年北条氏康建立真傳和尚を以開山とす

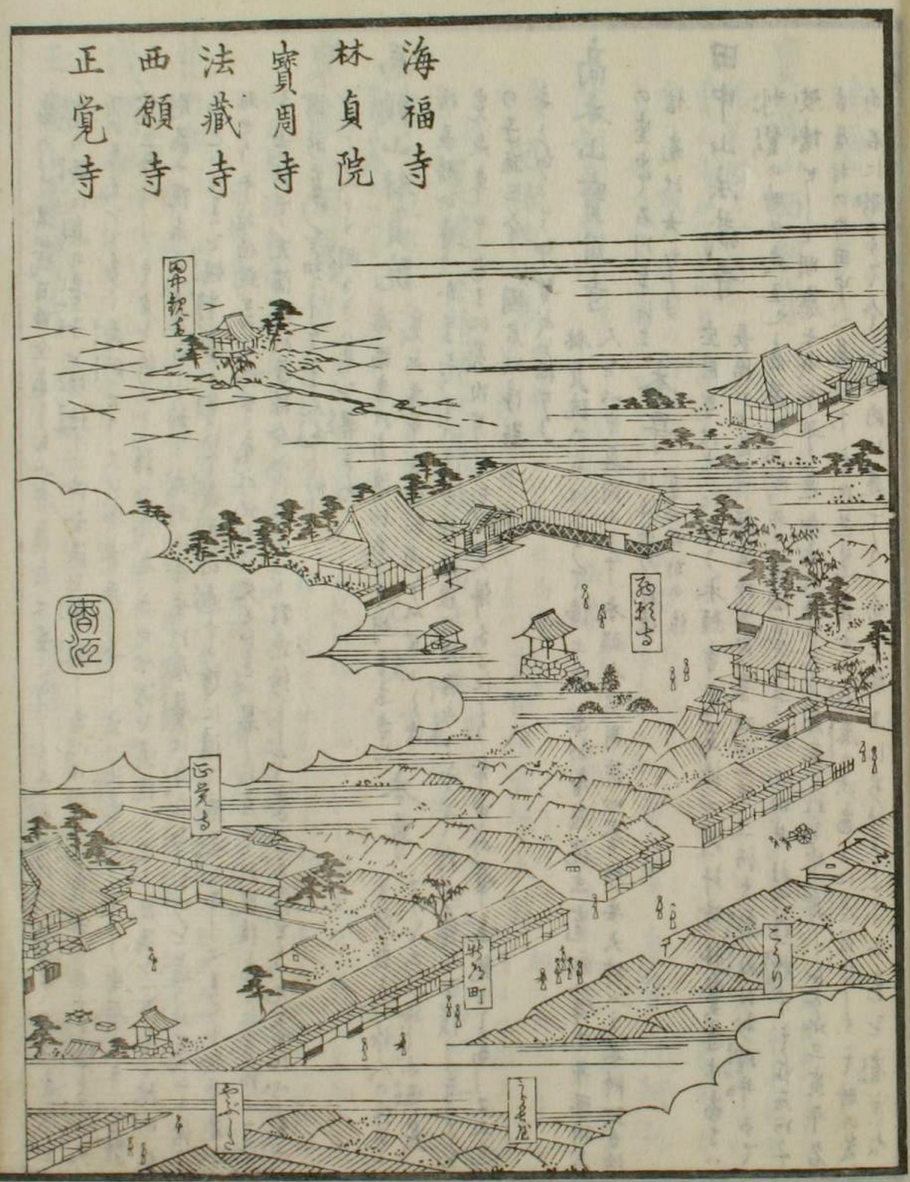
玉峯山海福寺

中下新道町の北にあり

本尊 釈迦像定めて大擔那元祖天竺にて九生涯の事附ありて今も此天の作

鎮守 天満宮祠 南も大擔那元祖天竺にて九生涯の事附ありて今も此天
神なり 修理を加ふるハ式年ごとの高

海福寺
林負院
寶周寺
法藏寺
西願寺
正覺寺





家にして其四代目曲全斎と云ふ人者義太夫の門に入りて豪傑を究め終に真の墓子と呼ばれ一曲全流と肇創一南北日門れ太郎義一共ふこも名もく天下の名取とも多く為時号り又詰ふ書画と善一或ハ浙青義一号す宝暦十年三歌八十三才にて其多を終みこも孫玉春斎亦曲全流と道統一もり風流とすり一楊所れ別荘を陽居一てた市一称す或時小茶室を展畳に自在あるものと造り枯室とも一又書も蝸牛義一号けて我意の適する所に随て点茶とも一又書も蝸牛義一称せり千村伯越翁ハ楊牛亀れ記ある文をけ且ハ暑一ハ古市れ没後あるに多附一て今を寺伝す天保五れ子孫今八代目あるが連綿一て家名を侯り凡茶にかゝるもの

馬頭山材貞院　寛永年中亜相和尚を以て開山とす　本尊

海福寺れ末寺にして浄土宗本派三州計沙弥愛寺末寺之

佐長勝の守り本尊あるが子孫流浪の後難あるにて称を像を彫一もうと寛永年中寺に参附せ一とかゝる吴仏あるにより年中の肇集絶ること命一又木造の子孫も今　國君れ浄敬

高木山寶周寺　林貞院のもにあり人と以申鼻開山とす　本尊

本顔人室周院心誉妙安大姉ハこも木像弘吉住の室にて石川をにも信光れ女かり

田中山法藏寺　宝周寺れ末にあり本顔寺末本派三州計沙弥愛寺末寺之

長治二乙酉年法倉権五郎景政の二男三河ち教盛江州理井にて刺髪の時の建立之嘉義元酉戌年蓮如上人の弟子覚元られを中興一実永三寅年名破壊せ一と明應七戌午年蓮如上人の弟子覚元られを中興一実永三寅年名古屋村の内田中へ易地すこも芭蕉翁もに逗留せ一こも時の発句石に附るて今も境内に建て句を国上にあげ一こふ号を彰ます

本尊　行基の作

寶龜山西願寺　法義られ末寺にして天台宗ふり

甲州の住人馬場七郎惟房の女惟英出家一西英一号す別馬場美濃ち信房の伯父ふり文明年中蓮如上人に逢一て末ると再興一今れ寺を改む茅を年中浄城築の時中下浅ち町へ遷て元禄年中再び今れ地にふる西寺女堂ハ御城浄造営の候材と　國君より賜りて建立せ一よ一

陀如来画像　蓮如上人の筆　阿弥陀の画像　実如上人の筆　藥師如来の画像　開基ふり称来

聖徳太子の御作馬場美濃ち守り本尊

阿弥陀如来　美濃守所持れ薙刀

富士の画　國君端龍院君れ御筆　己下皆と略す

武田信玄陣太鼓　胴に天文二年二月日比歳号を清書ちハ正統町家の祖子地あるとハ世諺翠一篇ありてもと正統町家よりの寄附

塔頭　唯信寺

靈鳳山正覚寺　西教寺の末にして浄土宗本派三州計沙弥愛寺末寺之

音院正覚寺と称一院家地あり一元禄四年今の室に改む覚永五年伝良清の中興ふりて中下六角町にあり一を正徳六申年今の地に元禄覚永寅度れ新焼に什室及び寺伝を亡悉失せり

花の木　江川の西南着所町北の武家屋敷れとと云伝還府以前ハ天王山の下ふる谷合ふりて称一院家

本尊　巧弥陀の立像

浅間社　中下江川町の南にあり一を正徳六申年今の地に例祭九月四日境内に天満宮の社あり　社人三谷氏

玉壺山覚鳳寺　甲下蛾屋町の北にあり一て虎菊師と称す

寶筵印　巧弥陀如来行基の作ふ

塔 石面に謹奉造立寶篋印塔應永十一甲申年二月
十五日願主得阿弥陀佛敬白と彫附〳〵

興西寺 上名五平荏町にありて 國君御代〳〵の時更牌を安置〳〵寺領若干ありて
他に比較うるき規模うるそ 本尊 阿弥陀
の立像

山神社 興西寺より東の方にあり旧地ハ淨城淨源井の内うしぐ巽也
淨近府の傍にうつる例祭十一月六日七日両日に社人三谷氏
あり神前より古鏡に武島天満宮の文字あり武島ハ
那古野合戦記にえそうり例祭正五九月
廿五日社人ハ山狭より三谷氏魚業
稲生街道 上名より西北川の岸を北へ通う春ハ稲生堤に花多く夏秋
とそうぐめ沿流より淨心記るを北の方をのぞめばかなへの白山
夜山等四時雪とつゞきそうも一見せ〳〵ぞ淨田面の眺をうと
風景なり

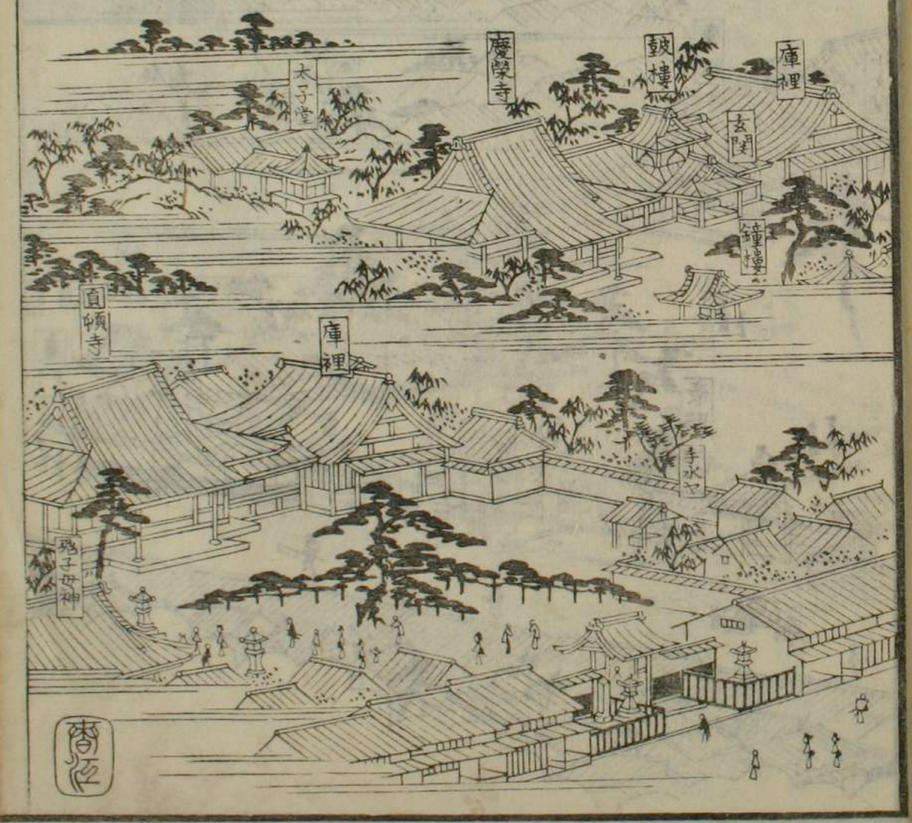
長久山圓頓寺 五條橋通より西北例ふあり日蓮宗末寺也本寺未
詳 境内に鬼子母神堂ありて毎月廿九日参詣群集す

本尊 法華
三宝

阿原山慶榮寺 永祿ちれ東澤 にあり本既ちれ末寺也永正八年辛未
三月廿八日 釈善正の両基うしぐ去日井那志水村ありうしを安置中
区万ち町人移〳享保九年今れ地にうつる 本尊 阿弥陀仏
去日の作

圓頓寺
慶榮寺

太子堂ハ往昔南北元興寺ゟ太子御基立ありし宝堤の古材を以造営也〳〵而うして内堂内に太子御自作のそ像を安〳〵そうり

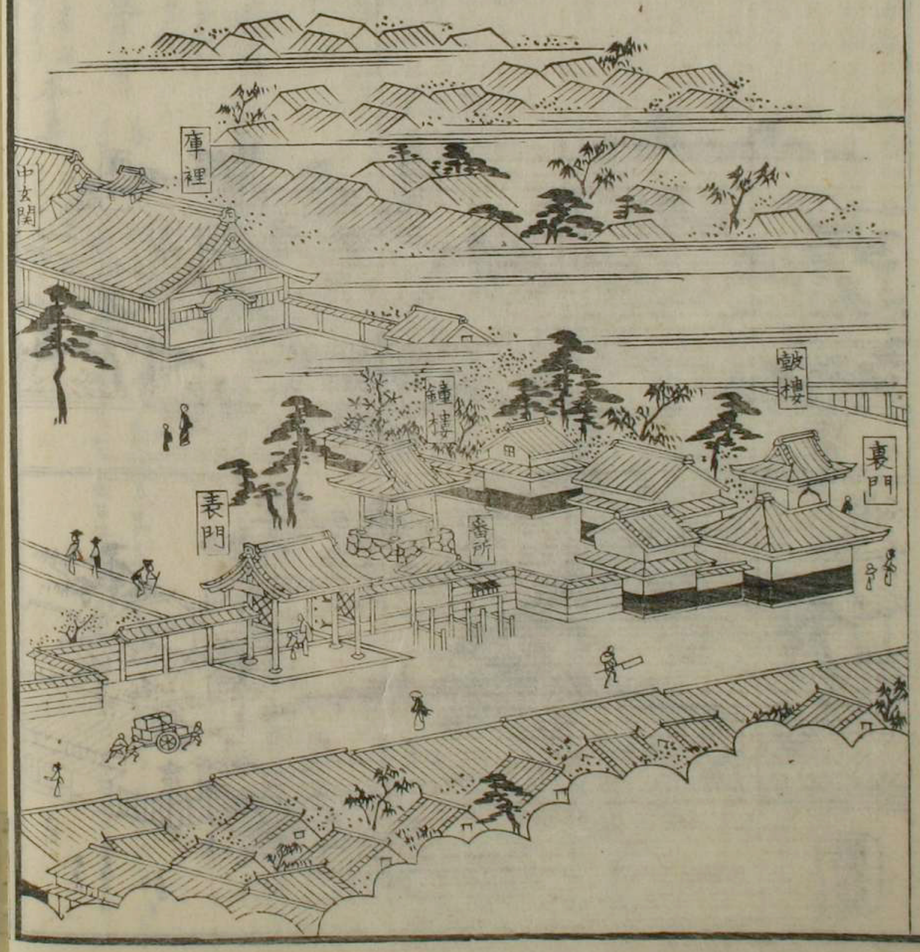


高田本坊

信行院の詠
ゟ折しも弥月
半ばるよ灵梅の
柳のあらゝを
見て

芳山

風ぬるき
日かと
柳の
ひとは
れ





高田本坊　上畠裏にあり高田一身田專修寺の別院なり

元文年中歓喜心院宮より臨江山信行院といひしを本坊へ移し志弘ゑて本坊となり僧魏堂を開基として下野國より田山当流を弘む　天拝

一光三尊佛　当地へお開帳の時は必ず当院へ弘通を営む

紗那糸絡殿　ゆゑ縁起にあり事も記さゞるに依りて大に疑ふ

堅昌次亮にも未世逸機の額　元上人院号の時書

寺寶　本堂正面高田山の額　元上人院号の時書

北に柳あり菩提樹と植えり此樹ハ野州柳沼より虚空藏菩薩天童に化して植たまひしと縁起にあり事も記さゞるに依りて大に疑ふ

堀川摠河戸　片端筋北にあり　尼諸國の高弘法お運漕もるとの変まで

移来りて出入の舟絶ゆるなし　上ハ伊城西より大幸川落合下ハ桑田の海に入　慶也十六年　育籍より美濃伊勢迄國の先方元来ゑして名古屋舟入を始る白魚のもに別に始

川と称へ福治寿変心則ことを役すようく今変ゑ

ようく尾州舊話畧に見えたり

延来會所　堀江町より西側にあり元和年中那古野入町の大橋助左衛門と云者より家に歩行の土藏を借て國屋敷とせしとなり其後末裔の豊両と量て来と買取て大橋賣てまた買てするに次第に来れり　是迄に莫大の米を賣買ひしより終に公に納めて拿ん所と為迷今れ〳〵日限しに於て公に納ひ

學館明倫堂　片端筋長嶋町より北へ入る者町にある東ハ聖堂御門西ハ學館の表門なり　源敬公初て學問所と営ひしハ大津町にありしを後中下御門の西へ移し寛永年中小明倫堂と改め

中今れ地小狭し　聖堂　先聖殿の御額ハ源敬公れ御筆　講堂及び学館庫倉にあり

ようく新に造立ようひし二仲の御祭事慶重なり

五條橋　京町通の西堀川の橋あり清洲の城門の橋中忠清城掛ともひしと云ふ十五年にて洗ひし擬宝珠の洛にも五條橋慶長七年壬寅六月吉日と刻えり

法雲山金剛寺　杉の町浄園町の東にあり陰徳家系抄心寺未信山堂建立ようく中島郡日下部村にをしと云ふ年中今の所にうつすに寺足利家本願の叶創ふく信長公の時寺領寄附ありしハ山堂公れ五十年ようく寛永八年六月二日を志浦新しものち

上自由衆

天王祭造り物

此年町〳〵六月一日より
牛頭天王を祭るに依の造
り物大仕懸りて他に新
るき夜分〳〵なりあり附
れ物〳〵きるハ大なる男
楠の中にとくうなる男
のもんの犢鼻褌〳〵
そろう数十人
〳〵道
さまる
〳〵山〳〵
〳〵屋と
提げ重べ居〳〵
〳〵看板に詰〳〵
うち〳〵迄ちりなどの新





あり曲亭馬琴が漫遊録に此
そう豆は画をもさて江戸の祭
宮の造り物ともは及バ
ざるうへをうけて
こに図せるハ三十三所ゟ
祝まつ宝〳〵幸香の
祭りに舘屑を焚き〳〵
数まりとも〳〵も亦一笑
するにさくよう

行脚におもむく方々より送られ寄進中村恩澤寺に岩屋に納アリ
此人〻より山堂明應四乙十八月の誕生なり〻 寛永八年八百三十六年の時なり〻 本尊
西観音ハ惡
毘大師の作

材木店 堀川東岸に材木を竹を薪屋新屋と多くならべうりこを問余國いちぐん本名山名産
也して死刑に定めまいらせに 國君さこ
あるべきや芭蕉の門弟にて杜國又万菊かるべしと答へ先年
の歳旦に 蓬莱や詩國のかざりひの木山といひ句を祝ひしあり
せ〻 作らるゝ〻死罪を脊ら阪はひめよ山とこゝろの材木店と山にとゝく
てこゝろ

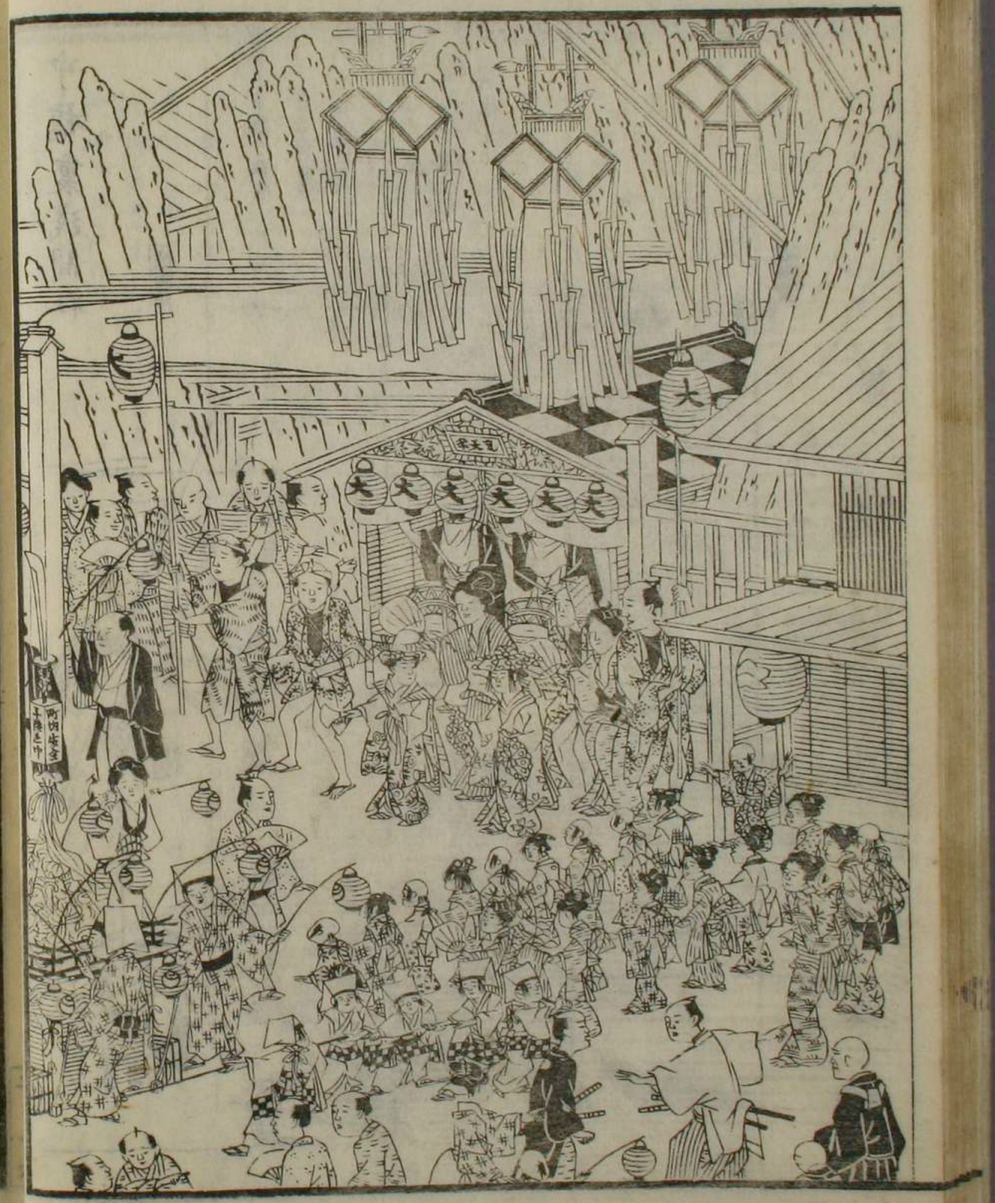
白山社 上材木町堀川のすぢ南側にあり〻此に白山權現奉掛御神前天正三寅年
多く疱を患ふる人朝鮮征伐の時こゝ木こて彫て祈願をかけ北側にあり浄土宗檜物師佐見町ゟ此地へ移る
らる張州志畧に當社旧地ハ荒神ありこゝ村にありこゝ
菊理媛命 例祭 八月十七日 本社 祭神

護学山清水寺 檜物師佐見町ゟ此地へ移る長五の長臣村佐渡守通勝
て其功を終るの 清水寺の観音に祈誓ひしかば 報賽のために清水
門に一寺を建立し 清伯と開山こゝて清水寺と名づけしと 本尊
ら極楽寺未こす 天二年六月奏旧誓願寺のすぢ 千手観音の像と安置し
洪仙比丘尼住持こゝり 石像地こゝる
さ此寺清水にあり 石階あり 堂師堂共 あるゝら大急ぬてあるとゝ石あり得ず
堂皆焼失ひこに本思議あるゝ多師の木像清水寺のこゝろ堂に



中橋東淺間社

此あたり南小十余町
の内商家の裏
ふうて古茂
しくたてつゝ
其数千ふ及へ
あるこ所下豊饒
の餘溢なるん





當府の祭品各
中町しれおくり八
きく〳〵中ごと小
車をとうろう
く
執八中央に勾形
笈板おくとえく
しおく〳〵先と梵
天〳〵ハ先天〳〵ハ
幣帛の類いよ
して供養の水行
おこなに用ゆる具おくバ中
央は勾形笈板とおして
いつる事おくん〳〵防奠考
まハ半 改天王をおくる
法一年中行事抄まハ
梵天王のまつりおくり
いへて又上村木町の切
紙燈籠ハ家毎にお
て是亦一ツ宅の祝を
のなり

まねきて名ある寺社を刻禮へとおもむきて女亜せしかば待へうる霊佛あり　鰐口　三河國比志賀郡若宮社
六月頭主負　鰐口一面　宝徳四年壬申
圓とぢり

荷上山興善寺　清水寺は白いにあり西
天台宗　桓武天皇の勅願所あり　そも海西郡荷上村にありて
正律師今れ宗に改めり　いと侍へあるいい中興開山を蓮如上
人と又尾陽雑記にい甚如上人の子真恵甚子正経本山けゆ
るをもて住持とりしと　尾えとう中世寺と法流にうつ
慶安年中再び名古屋へうつ覚文年中東派より西派に
改む　○本尊　阿弥陀の立像

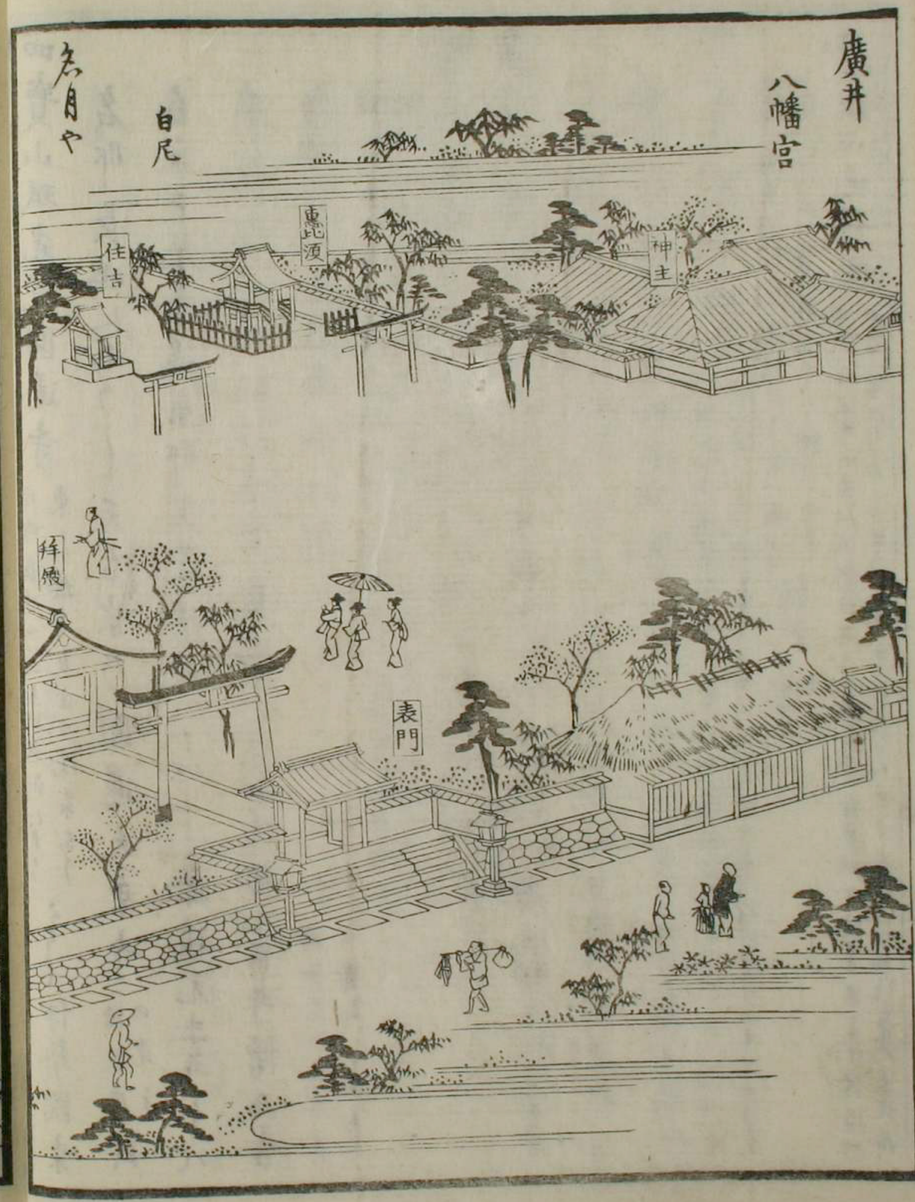
浄教寺　同町素名町より東の南側にあり西本願寺末之大永四年　本尊　阿弥陀如
傍祐孝建立して清洲にありしを　来の後内
に女れ髪と縮に包みて納亜又一紙の添状もあり　後壊し文
等も消てよくよく見えず　尾張名所図会に　永禄年歴久しと見えて行基作といひ侍へり
今お川家れ姫君越の篇中もぐりの老髪ふくもうんぬ
寺傳いと定うかず此像春日社作といひ侍へうて
尾州浄教寺の古寺は殿かまえて
燕　と内寺は殿かまえて　　真角

四寶山珉光院圓通寺　同町長徐町の東れ北側にあり　東本願寺末之
名郡長嶋にあり　天台宗乃圓通大衆寺　僧照慶我
貞永元辰年海東郡上萱津村へうつ　嘉禎元未年今れ
宗に改めり　兵乱にうつて衰廃せり　延徳元酉年僧西善
再興元和七酉年今れ所に還せり　○本尊　阿弥陀の木像　恵心侍郎の作なり

笹島焼磁器　濱井あり　親雲上人未詳　上人作まく法然上人祝雲上人連座の
影まく　是も上人筆れ化佛名号其外数品あり
廣井八幡宮　織様さまく　にもどりうき陶器あり
本國帳に従三位沼江縣天神とあり是之
○本社　祭神　應神天皇神　功皇后玉依姫命
孤神社　浅間社　兒御前社　恵比須社　其外小祠多し　○倒祭　八月十四日　試楽同十五日　祭礼神輿　材木町白山社より後南延
一宇あり　宝四年上山車焼失せしより砂絶して今れ近き　車楽とおせしが享保九年閏四月十三日火災に
摩尼山延命院　同町伏見町の　北市場にありて　寺傳に海浜より

廣井
八幡宮

名月や　白尼







死の為に建立せられて大福四年十二月四日迄金寺と改称せられ正則の古流文と共に西多年もんぱ近金もしくはひーろ今ハ院号と用ゐ本尊薬師の木像 寺寶 西界曼陀羅 北畿司の筆ぞ 文珠菩薩の画像 法倉啓書記ま

陳元贇寓居跡 柔名町通袋町より北ある良学院のをに 元贇ハ明の虎林縣より人なるが明季の乱をさけて日本に来り 國祖君の寵遇ふ蒙りて當府に住せしが寛文十一年六月九日年八十五にて死す深草より元政一方外の交と倡和集あり墓ハ建中寺ふ碑面に大明國武林既白山廣學陳元贇寛文十一辛亥年六月九日没と其傍に白翁道元の碑あり是則元贇の子俗称源太郎の墓ふ墨永二年九月二日没とせる 防丘詩選の詩人爵里の條に陳元贇字義都別号既白山人又称芝山并菴等明虎林人崇禎中下第流落江湖逐越海帰化 日本後仕張藩 敬庵寵ぢ厚寛文十一年六月卒年七十有餘有集未刻 卒年七十有餘 又拳法秘書ふ云ふ

陳元贇（ちんげんぴん）
寓居（ぐうきょ）の図





元賛江戸麻布の國正寺に寓する時福地七郎右衛門次男三浦与次右衛門三人の浪人ありて囚人を彼寺に寄寓せしめ元賛ら其に語らひ囚人と捕る術あり我ら技と見るふたり三人絶ふ工夫と凝して其術を知らば見即起倒流の業

術あり

伊藤玄澤施藥　代々御園町六丁目に住居して年ごろ山野雪あるきの草を採製して屢く施し来りしが　國君これを聞召までに丸散ふを製して屢く施し来りしが　宝暦五乙亥十二月より年々業料を賜ふて施薬せしこの作と業とを今に絶ず施ら近ごろ雲納順礼或ハ六部非人などにも其国近国ハさらなり遠国をまで施薬と名よ上に看版と掲ぐ其文左に記して以て施業

右ハ予多年貧窮の人病苦するを見るに忍ず薬料を賜ふて施薬せざる人に施来業とはいへども薬料潤沢ならざれば多く施すこと能ハず依て毎年施薬の定日を設けて貧窮の人を撰び施薬せんと欲す然ども貧窮の人ハ定日に来ること能ハざるものもあらん又定日に来るものも多くハ施すこと能ハず但右の定日に来るの貧人中にて殊に困窮の者ハ予が家に来るべし其時施すべし

雪水の出家乞食ハ勿論ながら其いつはりなきを知らざれバ施すことなし

再生堂　伊藤玄澤

寶暦乙亥十二月

慈雲山福泉寺　栗原町六丁目西側にあり天台宗也田村薬院ま

明神社　安永六年四月の勧請　創祭九月十四日

醫学館藥品會　毎年六月十日ニて

木玉石銅銭あるいは奇品を

物産まで一万餘種集め廣く

諸人に見せる事也

本尊　千手観音　慈覚大師の作

戸隠

おの貴賤老弱隣國近在ともに漸ひて

都督みて書生をしめ書生をしめ帰白して

平安より明の墨竹に名を出して三次年安の

ふもとまで世に墨竹に名あり氏家姓ハ和気氏ハ

浅井賜宅ハ蒲焼町第一の西北側にあり

廣白山永林寺　塔中第一の西北側にあり曹洞宗　全隆寺末　寛永年中小笠原某の菩提所として建立す

本尊　正観音　行基菩薩の作

薬師堂　地ごく高山の薬師とて

佛工春日の作なり

不動堂　飛不動

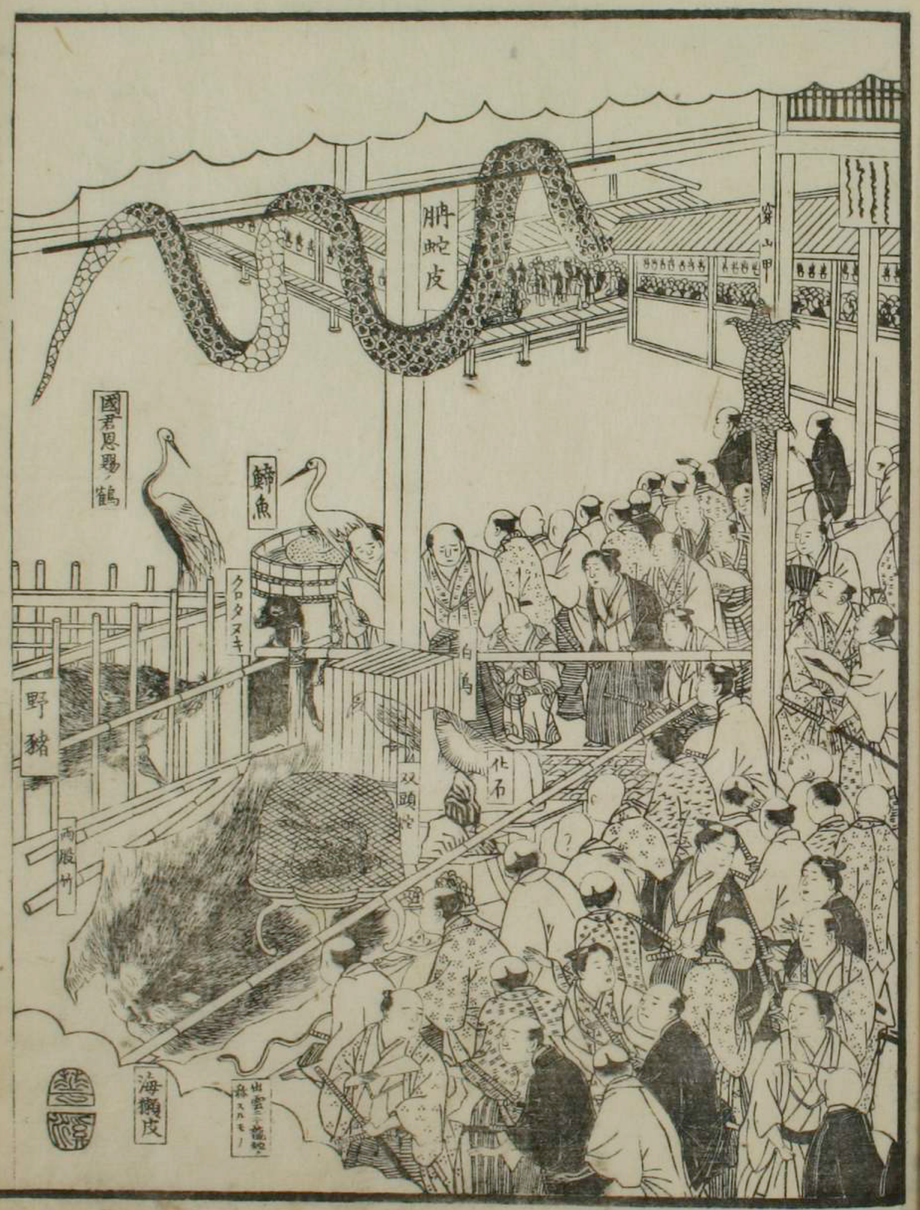
白山權現社　境内

廣井女王古墳　廣井ハ武家屋敷の西の方

墓の跡ハいまだ定ならず女王ハ三代実録に貞観元

醫學館
藥品會







年十月廿三日乙巳尚侍従三位廣井女王薨廣井者二品長親王之後也云云父従五位上雄河王云云仁壽四年授従三位天安三年轉尚侍（前官雄典侍）薨時八十有餘廣井女修徳操挙動有礼以能歌見称善催馬樂云云好事者多就而習之焉至于殂没時人悼之云云（古書にあるべし）

醫王山東光寺　廣井模三ツ家寺周町の西北南側にありて建立ヒ　古刹なり　と元和二年樊田の地に遷院元年泰澄法師の建立ヒ

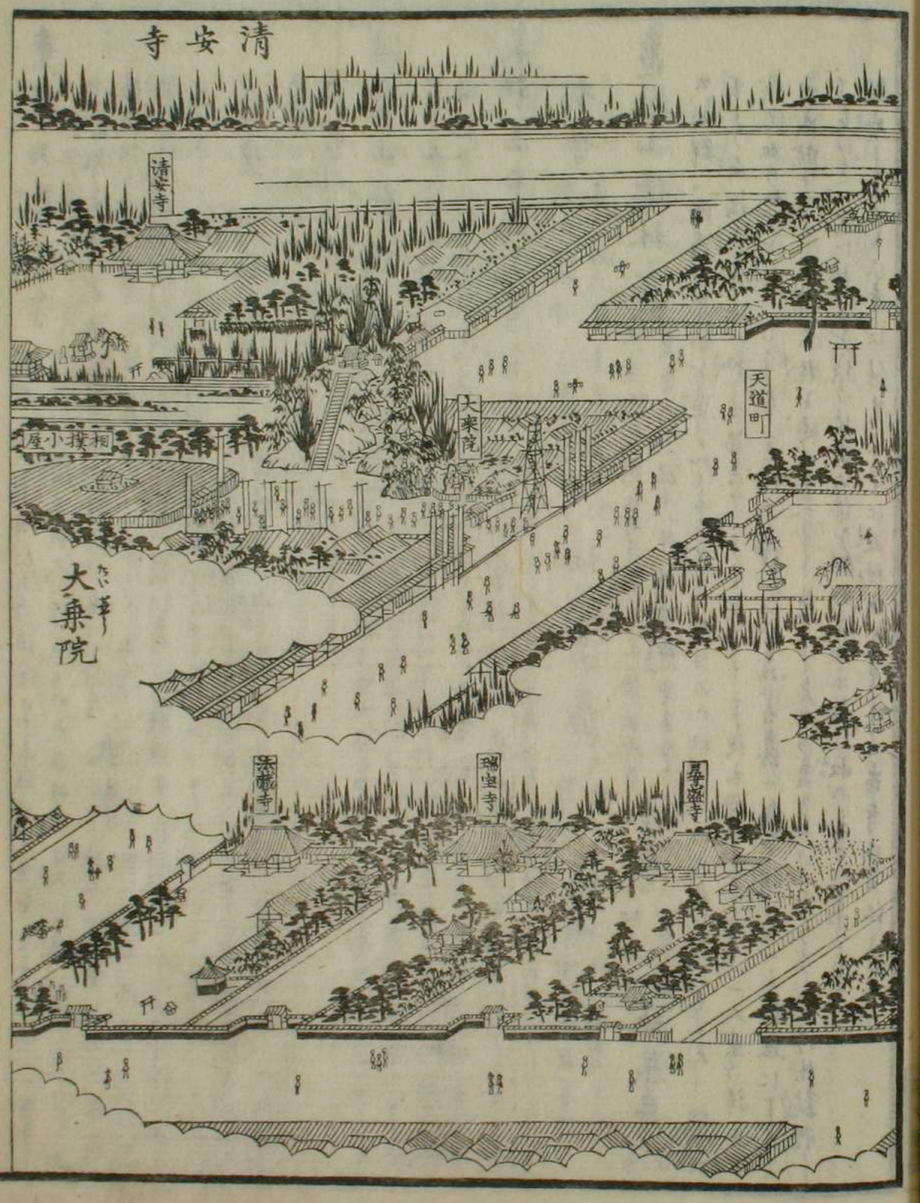
の佛良沈中尊にて移住すゐに此まゐ堂あハ良沈ノ檀那ゟ拵ゟ　ゟ　ゟ　

天道宮



壽經寺
誓願寺
西光院
法應寺
大運寺
尋威寺
瑞寶寺
法藏寺
德林寺

清安寺



重寶山養林寺　光明寺の末寺にして淨土宗鎮西派百万遍智恩寺末開山八智慧ち
寺泰雄去規の建立にて美濃國波多野城主にうつ〳〵
淸須にうつ〳〵　慶長年中再びこゝに
海にて不幸の後奥田大貳司季範の家に来〳〵と義経平家退付上洛の時気仙へ
そう〳〵ゞ法然上人へ依りてその後發長に依来〳〵て此寺に
寺宝　阿弥陀画像　平敦盛の母衣きぬに法然上人自筆に画きて無名妻
此寺の宝あり　塔頭攝取院　正保二年
せう〳〵あり　の建立

法喜山誓願寺　岩林寺末にあり淨土西山派善龍禅林寺光明寺より元亀三
年僧空範生まれて淸須にあり〳〵と慶長年中こゝにうつす空
範が叡山より携へ来り〳〵ふひ仏と
通称せう〳〵る桜の大樹あり〳〵名木
枝もて〳〵今ハうえ父の代
枯もて〳〵今ハうえ父の代

永照山西光院護念寺　淨土宗鎮西派本山にして擊誉ち開ひ大永年中
僧久慶建立して淸須にあり〳〵と淸洲府の後ちにうつせう

本尊　阿弥陀の像ハ多聞天の作にして慈覚大師の
像と同木にて慈覚大師の御作

亀松山徳林寺　天道町北例にあり淨土宗鎮西派にして慶井村白山の社の樟の大樹を伐らんとして
慶長寺未永禄十一年僧空誉建立して
ゑ朝鮮へ渡海の軍船を造らんとして
伐て血のあるとき怪むことあり但し樣なん地蔵菩薩一軀と剣とあり報恩により
改成就せんとして後ハ松を過ぐべし
てなげきバ迷に樟木と伐り地蔵の像と彫刻一極楽院に収めまつりしが
類焼してのち此寺に依来〳〵今に及ぬ地蔵菩薩として尚寺の霊仏となり

本尊　阿弥陀の木像　**地蔵尊**　吉の作　秀

塔頭　宝珠院清峯院　仙松院の三宇あり

地蔵菩薩　小野篁の作

塔頭　宝珠院清峯院

愛宕山大乘院　徳林寺北向にあり當山派の修驗紀伊國の根来日行少て、今ハ
の朝日村にて大圓坊と曰ふ末寺三住中将忠吉君の帰建立少て淸洲
勤進より附多くハ此境内ふて鳥居ハ慶長五年
愛太子社　仮殿棟祝と今ハ多
年古き天社太郎坊社
天道社　村東町にあり今ハ此社あり
天照大神月讀　**未社**　八幡社　天王社　稲荷社
命の二座あり　弁才天社等此小社多し　**例祭**　九月十四日　神楽あり　**祠官**　加藤氏

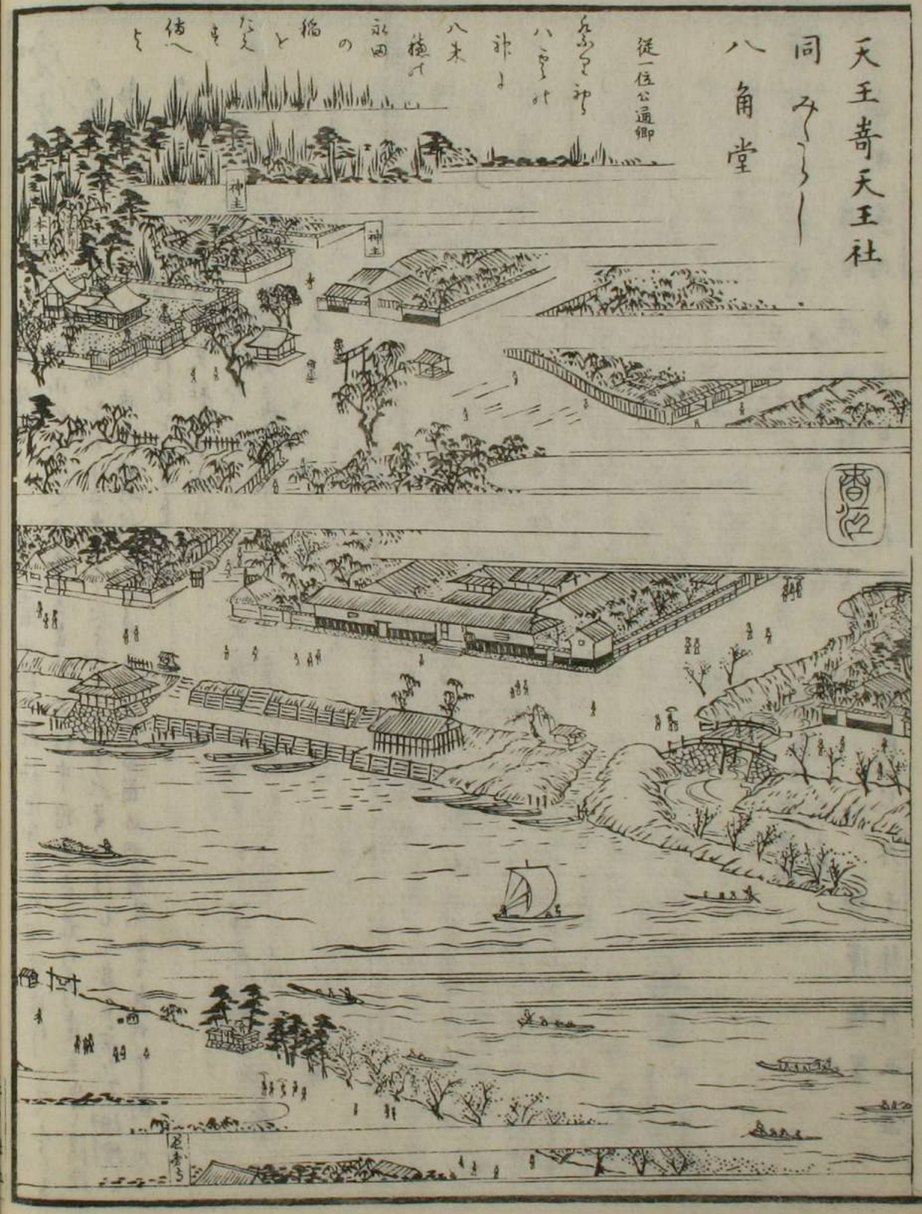
牛頭天王社　慶井　堀川の東岸にあり　まつる所ハ天王等ふ称すらの地東北ハ
慶〳〵川向ひの八角堂門前の清泉ハ入海の岬あり〳〵元洲崎天王〳〵称すり〳〵境内も
そこを掘撰松等ひ林あり〳〵元掘の杰ふべし南社の清水
社泰產社　伊弉諾伊弉冊の両尊豊玉姫を配祀す伊弉諾伊弉冊の両神ハ
造化の父母豊玉姫ハ慶冬に係あり神あるべし泰產の神ふるまつる
船玉社　祭ハ毎年正月吉郡一宮神事ふ依あり〳〵神あるべし泰產の神ふるまつる
てあり船玉社ハ一宮神社にて事神事ふ依あり〳〵神あるべし実ハ
あひ船霊を祭りて船をまもるまつる船舶精霊と船玉とあるべし
うるハ〳〵えるまつる船舶精霊と船玉とあるべし
氏まつり　洲川に車楽船を
流す津島祭のまね　**社家二人**　永田氏　吉川氏

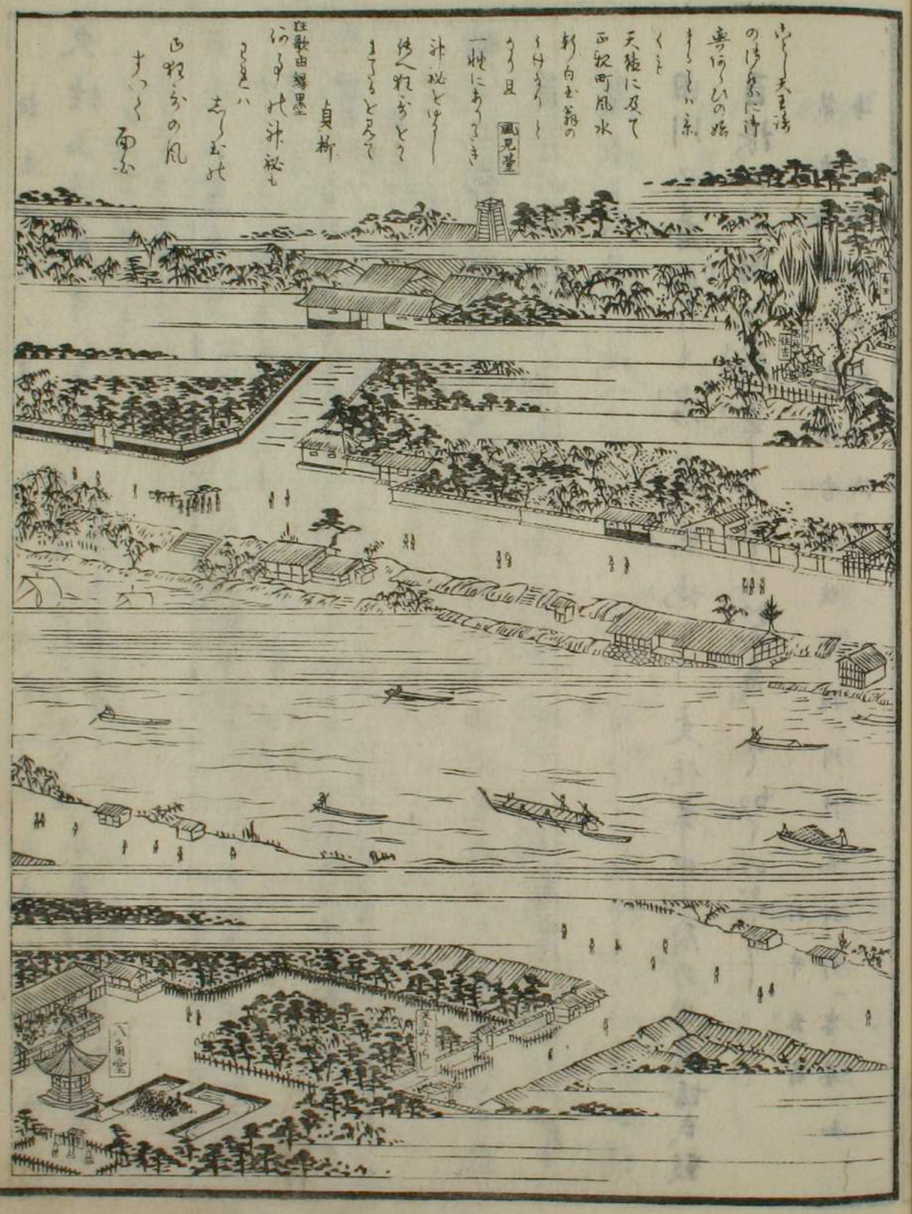
龍江山長圓寺　西水主町にあり本教寺末　**本尊**　阿弥陀
東派津島代成信坊末　の立像

春日遊長圓寺　得二偕字
高堂非俗地満目百花自萬點關凡外千株列一水涯

柳澤維賢

天王寺天王社
同　みくじ
八角堂




神主
神主
神主

疑看曳曵ゝ還聽鳥喈ゝ永晝何知永優遊与客偕

久佳山法蔵寺八角堂 長円寺北にあり天台宗 **本尊** 某師此来朝教大師の作 **清水** 江戸東叡山の末寺ゝ
門前にうゝゝゝゝゝ
たゝひありき名泉あり

日秀山聖運寺 東水主町にあり日蓮宗安房國小湊村誕生寺末寺の町に多門 **本尊** 法華三尊
姑ゝゝゝ寺と号す一向上人今此山号寺号に改ゝ
改ゝを天和三年ゝゝにうつせり

日置 延喜式東鑑等をそらへる古書におもゝ地名あり古語古大臣頼長公もあゝに古園ありて台記の久安六年七月廿三日の條に尾張國日置荘と
と検注ありきゝゝゝゝゝ
きゝゝゝ之荘ありき

堀川の櫻 両岸日置橋より北の方西水主町まで数所のあり数百本の接樹ありて添生の枝ハ未紗神をつゝ絵画岸に注ぐゝ羣集水ハ舟を泛へゝ上下に花を賞するあゝ嵐山隅田川の春興も劣らぬ勝地ゝゝ文化年中府の世臣堀氏数百根の小樹を栽並べゝ今ハ繁茂してかくのごとし

第五橋遠両岸頭香雲擁川淳花神引客春如
海不択雅流兼俗流

官櫻両岸届川湾縵卉芳菲幾往還春思在人猶在
我相逢不語歩花間

門外漕江春未闌岸櫻撩乱映波瀾橋頭一望花千
畝飛日渾為雪後看

第五橋両春色加清明節後詰櫻花青帝作被香雲
鎖不得遊人到酒家

月照花林雪糝糊江涵花影月輪孤慰懃多謝東皇
手画作春江花月圖

くまなき月代桃さくらの花の雪うきなみのそらひゝやうん 咸瀬正忠
きよき流れあるゝ堀川をさて
堀川の花と見ゝ

咲つゞくきハの花ハいくそ多弥ゝ堀川よ行みなゝゝ 深田正韶

春もゝ花乃あるゝを嬉おきのこゝひゝ有ゝん 木村千齋
花の比堀川そ

はいまゝ見ゝ人ゝゝる花の後さハ多のこゝや如何ゝゝ 間嶋正盈

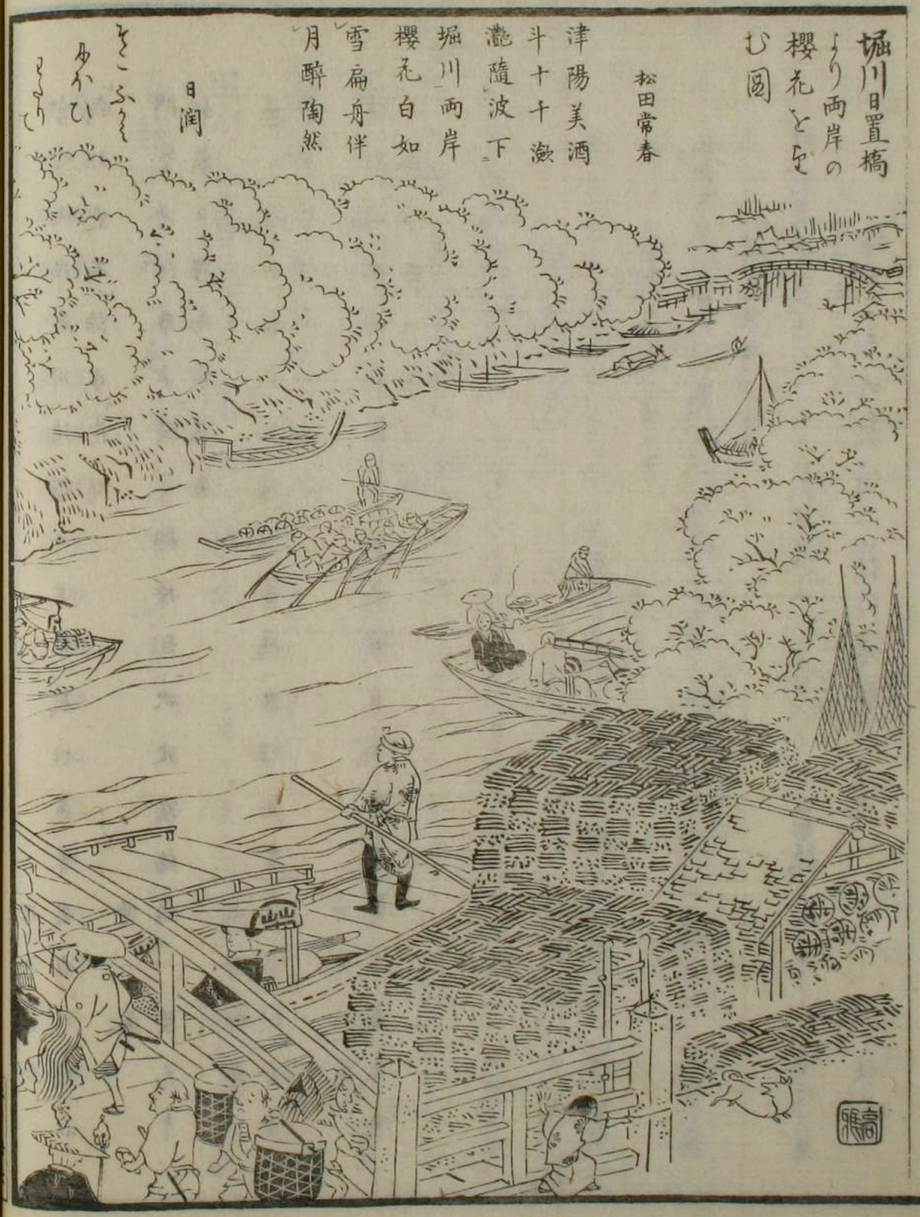
ゆくゝゝの秋咱ハ花の後ゝゝる 岐蓼

堀川日置橋より両岸の櫻花をむ図

松田常春

津陽美酒
斗十十激
灩隨波下
堀川両岸
櫻花白如
雪扁舟伴
月醉陶然

日潤







鶯谷　日置小川町の東白山のあたりをいふ今も人家はむらがり連巻きたれば茅社數多の中に森のこんもりと茂れる社あり〳〵八幡宮と崇めたてまつれり萬葉集の中に此谷を讀めるうたもあり〳〵又丹波路二條山の山號の般若寺の門前に子安地蔵尊ありて是も續日本紀及び扶桑畧記に養老五年正月戊申朝尾張國言小鳥生大鳥とあるも此谷の事なり金鳥ともいふべし〳〵延喜治部省式の中陽のうちの小鳥生大鳥と見えたり

織田丹波守　日置の人なり掃部忠寛の文也斯波家の世臣にて下四郡の政務を掌どる那古野合戦の時も信秀の古人にて今川家を亡ぼす天文十三年代宗牧の東國紀行に那古野に下着して連歌と興行せし事あり其後織田丹波も喜多野右京亮など来たりて一座せしよし宗長が手記にも織田丹波も興行に来たりあるを代々ある人なりと記して連歌を收めり〳〵人なり

無三殿間　瑞川の西日置古渡の地にあり松平図書頭家名斷絶せしかば無三〳〵月俸三百口を給ひて日置の別荘に在りて家例にある如く名代出仕にのぞみ〳〵今も無三殿ともいふ

八幡宮　大曽根町にありて大曽根八幡と稱す

富士見ての一ぢ八幡の神樂拍子を習ひしとぞ　徳源云直矩に教へさせたりしとぞ　○未社　辨財天社　須原社　牛頭天王社　松尾社　恵比須社　稲荷社　賀茂社　愛宕社等　神體　神樂太鼓　甚だくさりて胴内に文字ありて修補之檀那大里左京亮貞禪尼文亀元年辛酉十月廿八日観福寺奉施入太鼓云〳〵



了義院

三日月塚

大岩松の紫桃院

泊舩集

有しかたる

ふしぎ

仰ぐ

三日の月

書海

番神祠

三日月塚

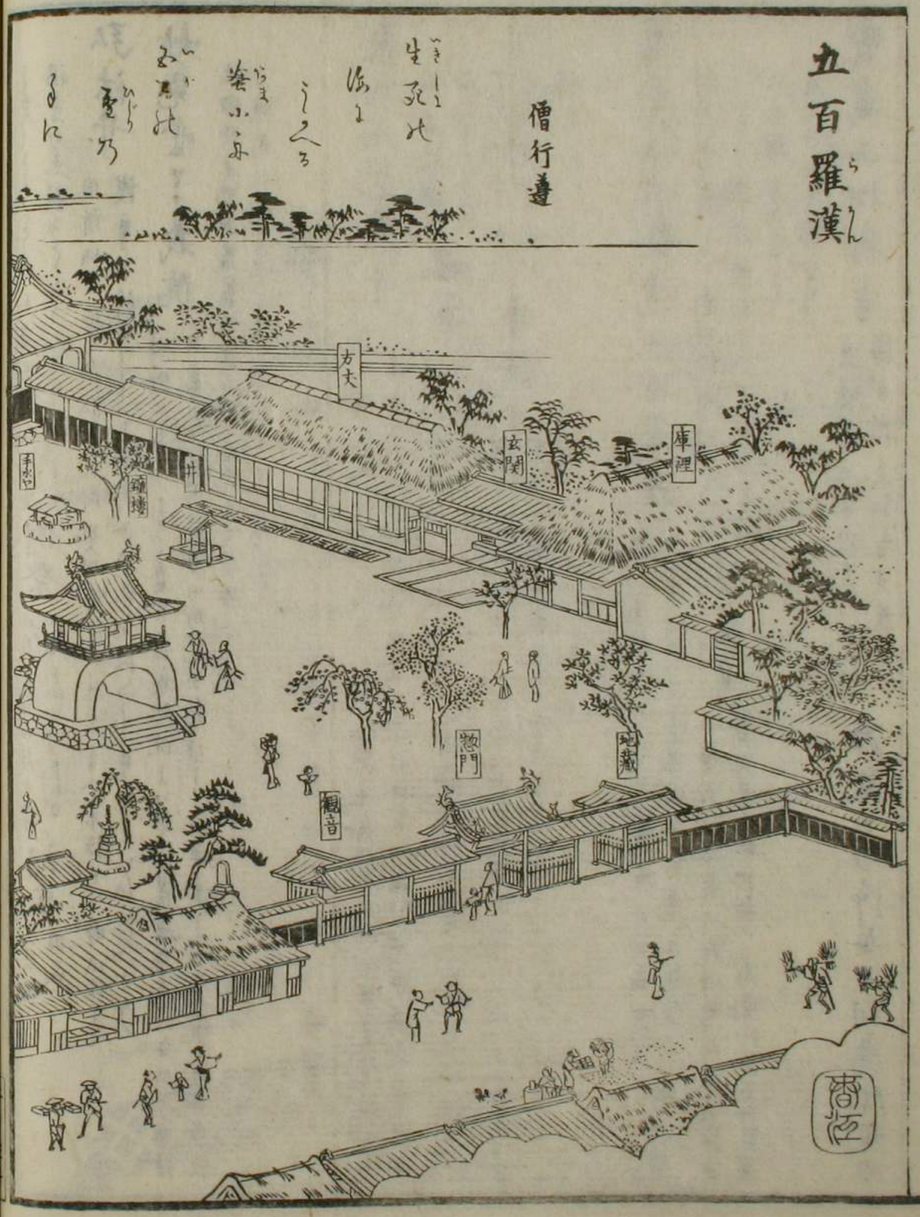
ふしぎ

ふしぎ

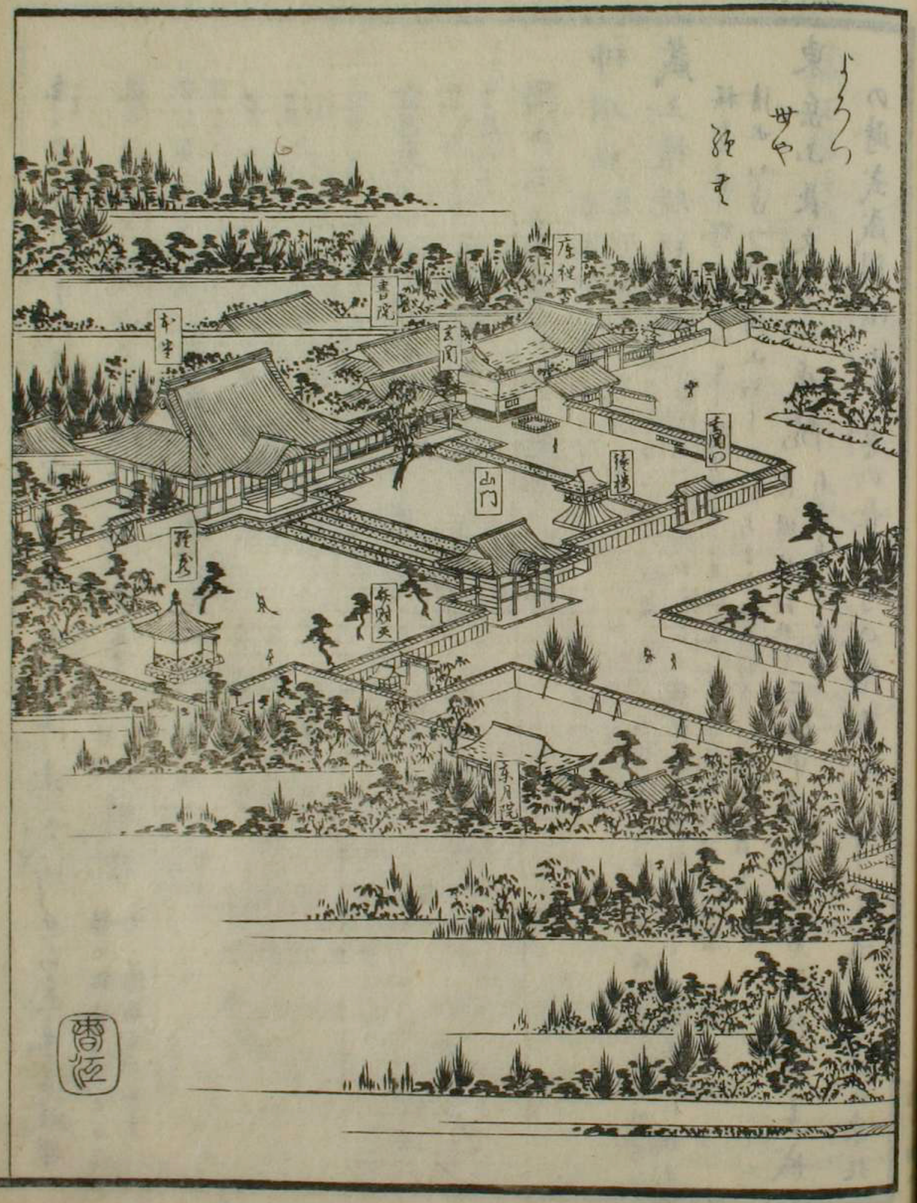
ふしぎ

五百羅漢

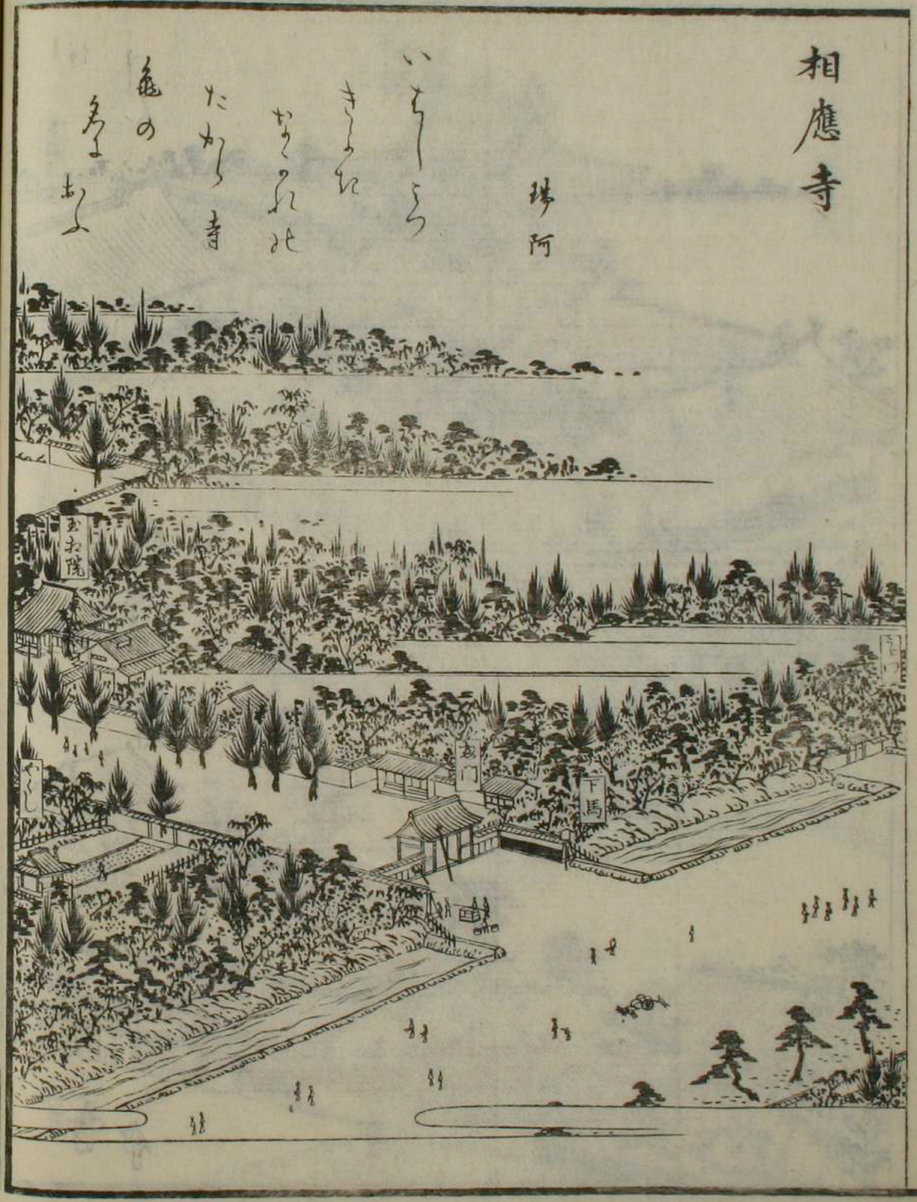
僧行遶







相應寺




藏王權現社
白石
月山
竹分
神木大杉
本社
天神
白山
神主
神主
神主

長久寺

河越名集

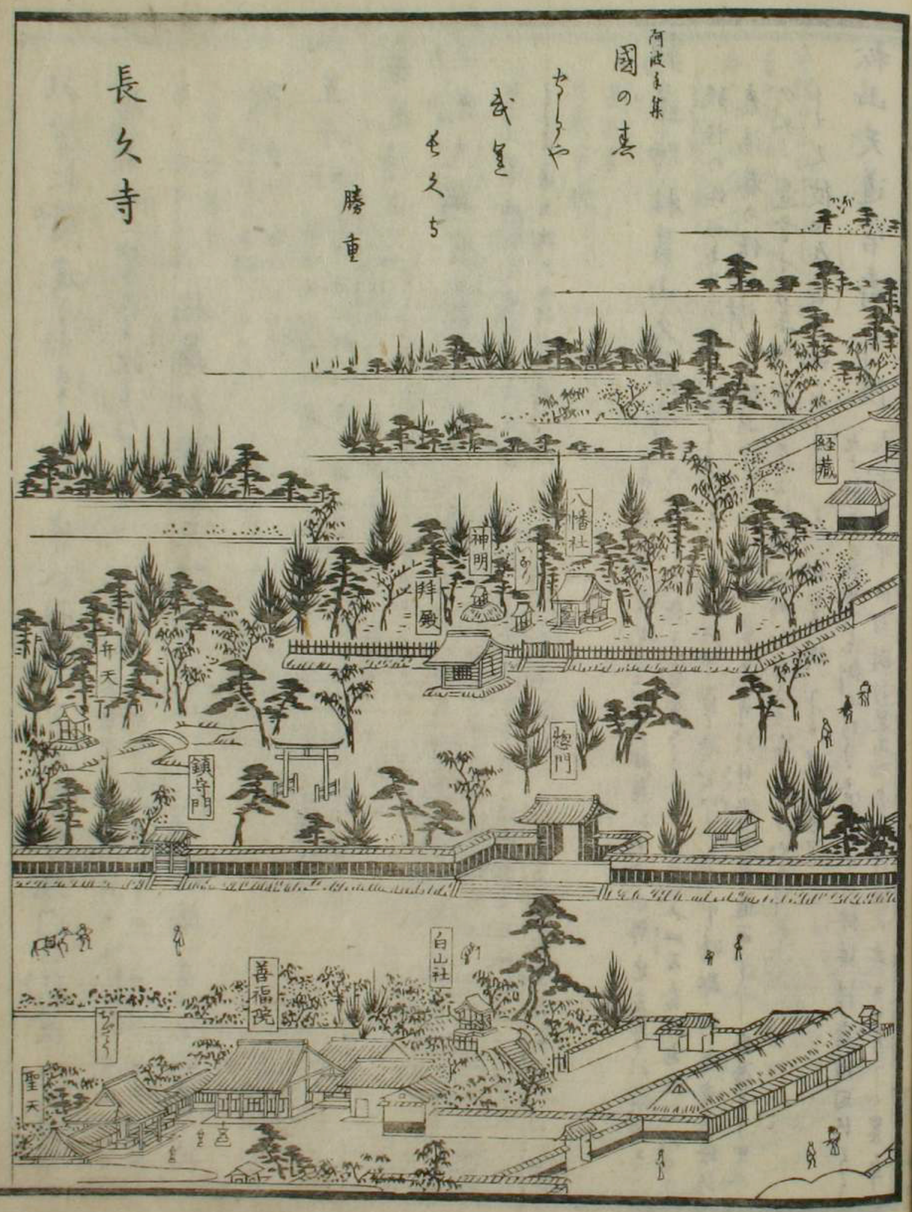
國の春

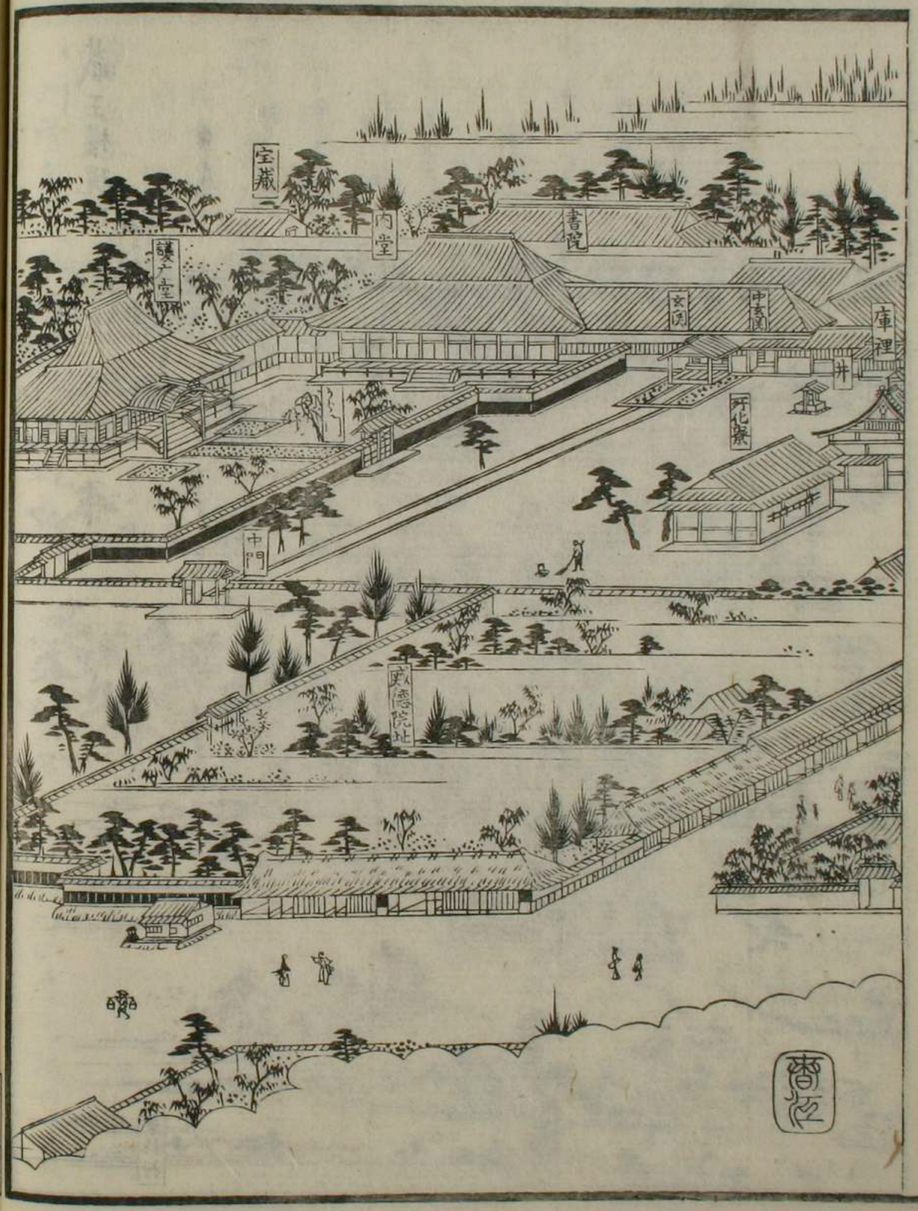
やしろや

武里

名久ち

勝重







れ方に営建〳〵まゝ鎮守八幡宮と祀りて鬼門の法護とぞ

慶長年中さにうもり〇本尊不動明王智證大師の作眷属毘迦羅勢多伽 八幡社 長久寺二〆公命と奉〳〵勅請ナ 稲荷社 辨財天社 神明社 ともに境内にあり 塔頭 牛王山善福院 門前の西側にあり 境内に白山社あり

八王子社 志水町北行南にあり五男三女を祭る 諸國八王子の社の例に同じ神前に清き流地あり又未社も多し

亀尾清水 此清水あるによりて名を清水と呼初めり 月に数多くのまばろ〳〵志水町しるひあり

七尾天満宮亀尾山永正寺 志水の西成瀬家の中屋敷の内にあり真言宗長久寺末永正年中の建立にて天満宮は社僧の建て奉りし亀に乗りて此例ある山林の石上に出現ありしより此寺縁起に見えたり本地十一面観音ハ行基の作ナ外 長宝多〳〵

鶏薬師 桂昌山久法寺 長楯筋善光寺筋の西角にあり水野定光寺は通所なり此所〳〵武士屋敷なりしが世に入り血なまぐさきは忌嫌ふ故に俗説ありて往人もなかりしが妖怪の俗説ありて往人もなかりしが元禄二年卓堂と号く中略那妙鳥寺の塔頭なり定光寺は竺堂和尚通所〳〵宝暦年中今のまゝ造営す薬師堂の屋上に鶏の形を上ぐる為ともやらん又彼血なまぐさきは忌嫌ふ故にや

松山天道宮壽命院 九十町町の北にあり末寺の系例おなじ 青山派の修験清壽院同じく大永年中出羽國羽黒山の山伏隆海の建立なり〳〵累年

七尾天神

忠孚
華表相輝斜日
天銅龍蟠石吐清泉一
庭紅葉渾如錦
神詠風光満目前





天満宮や
梅の
士朗

文龜年中山林に貴き隱逸の僧小菴を結び十一面觀音を安置し祕法を修行しけるが或時山林を巡るおりしも尾七つ有る靈龜菅神の木像と甲に負て樹下に來るを彼僧感得して小菴を龜尾山永正寺と号し一宇を創建して本社を守護せしめ武靈像を安置す故に七尾天神と唱称するなり古老の口碑に伝ふる所を圖せり

七尾天神
出現の圖



喪廢に及ひしと元和年中に壽命院美濃の人木社天道宮左右八幡を勧請し雜財天をうつす其外境内に末社多し

富永山養念寺

飯田町南側にあり東本願寺直末の院家 慶長二年僧賢誓建立 賢誓八安阿弥の作 筑後守道統の系譜今も相存す 本尊 阿弥陀佛

弘太師親鸞聖人蓮如上人實如上人の真筆并に水晶珠数其外数品伝ふ 寺寶 親鸞聖人影像 蓮如上人の真筆 軸物数多あり 又教如上人よりの御由緒ある所以なり 殿下より御紋附の幕并に御紋附の什器を多く附與せらる 又 國君御直筆の書画及び葵の御紋附の提灯一張あり 林泉の石に湧る飯綱明神の祠あり ○當寺前住威廣院靈曜八博学頑徳にして本山の学寮擬講師となり遷化の後諸國の子弟師恩を追慕して石碑を建つ 支ハ清岡長材卿書ハ五辻豊仲卿なり

伊勢國負弁郡長深の城主富永筑後守五代の孫富永六左衛門の嫡男久太郎なり故に富永山と称す

養念寺後園鳥池 觀蓮賦 古調一章 精一

池江鳥為男豈謂水色玄而六七月際清漣出紅蓮

涼晨花名我来稗瓜皮船

高濱山平田院

飯田町北東にあり淨土宗建中寺末なり 平岩氏の菩提寺なり 参

慶長十二年親吉甲斐國を領せし時其國甲府中にうつせしが寺も亦甲府にうつし片端の町名に

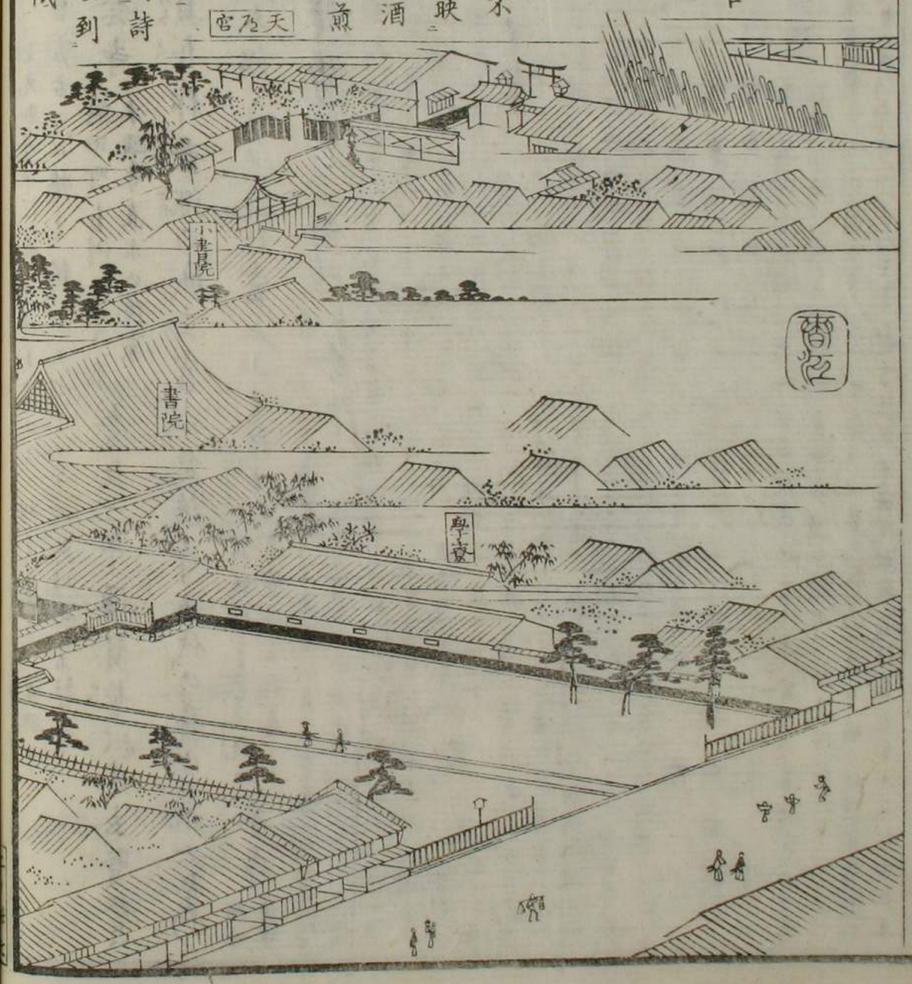
あるしが内大半再び今の所へうつせり 親吉法名平田院殿越翁休岳大居士 及び殉死本

養念寺
松山天道宮

遊養念寺

挺之

數里城東路不
迷水如人字映
林棲高樓把酒
神仙侶丈室煎
茶法喜妻細
向屏中看孔
雀靜臨池上
對鳥鷺欲將詩
句酬佳景坐到
閑千北手低



同前

雲華道人

看蓮古寺正清晨
池上青苔綠作茵
大葉藏花ゝ不見
水中紅影浴佳人

烏地ゝ　曙子

蓮社深衆に
まじ夕ゝる

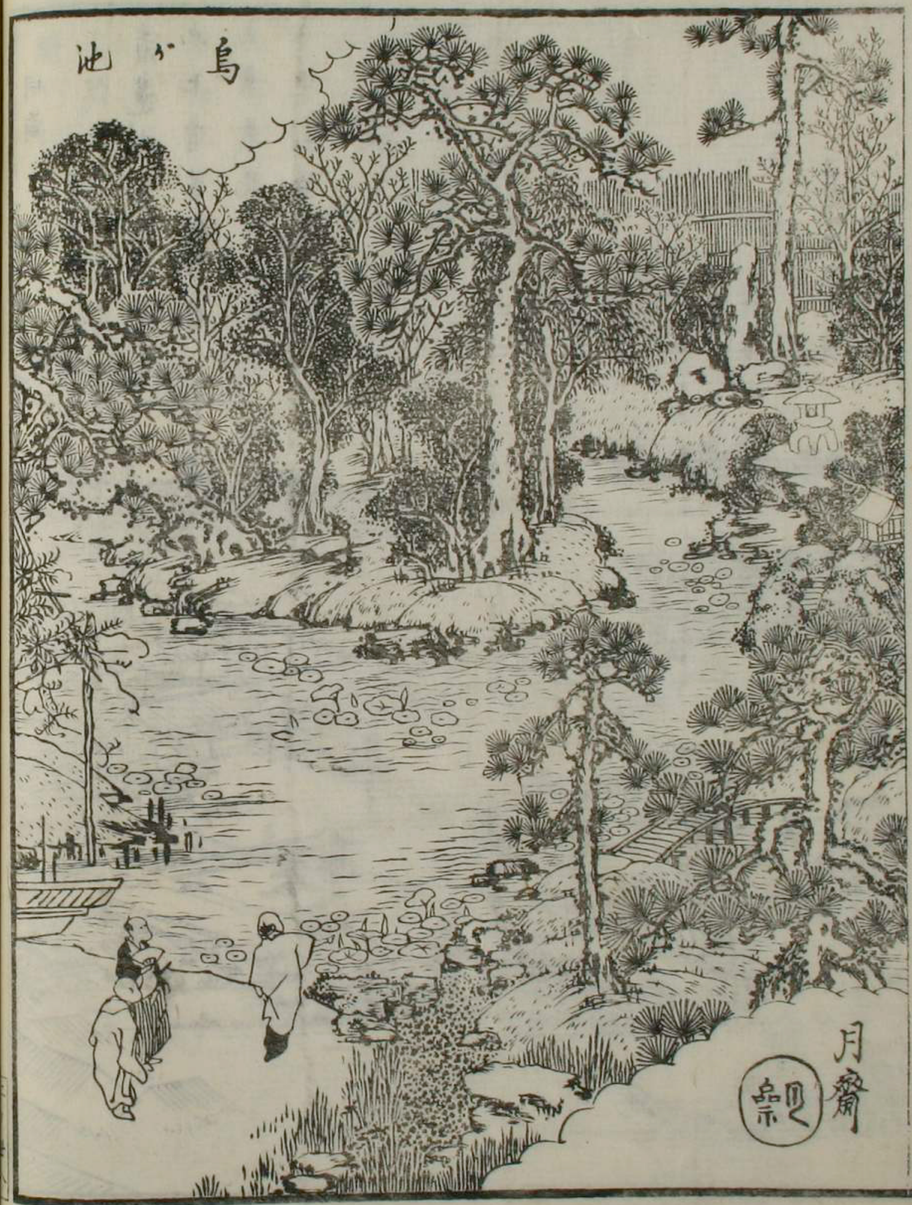
成允

飛ゝ池の
めまぐるまでみ

自笑

ましはやゝ
居てもれの月

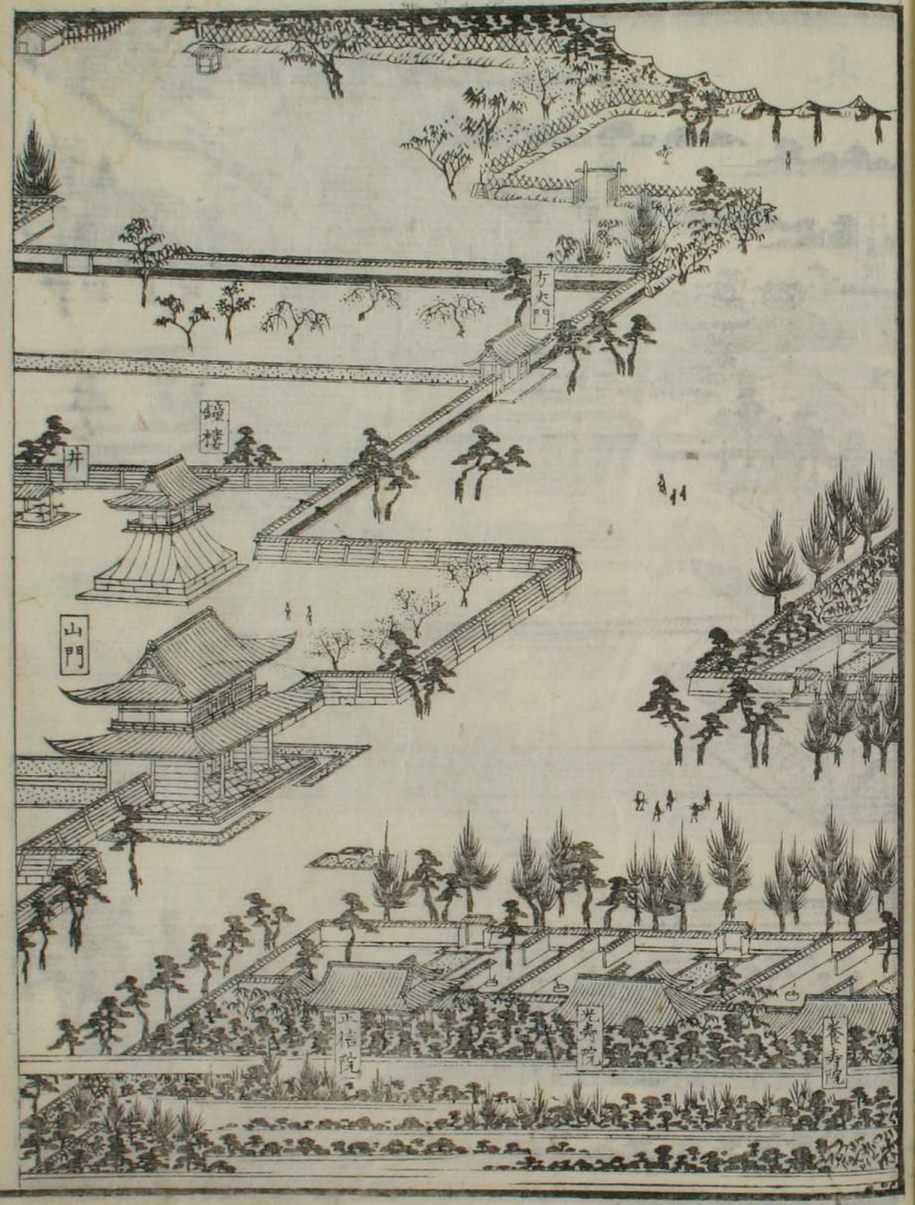




多勘介親信の石塔ありまた親吉東帯の
画像もありて例年正月晦日に法會あり

徳興山建中寺 京町通の東にあり浄土宗無本寺國君御代より御菩提所なり

御父 源敬公より清善掖寺として建立あり下総國結城の弘經寺より廓呑和尚を招請して開山とす後に同五年二月往
官成就の後廓呑上京して六月廿二日參内して住僧代々賜紫
勅許の綸旨を拝受して始まり境内廣大にして 國君御代々及び 御簾中方御連枝方より御廟御靈屋をはじめ堂宇甚多く
善美を盡せり殊に又御寄附の宝物すくなからざるも尽記を
犯し奉らんことを畏れて略す ○ **本尊** 阿弥陀佛 烏佛師の作 扉
聖徳太子四天王寺持の天佛と烏佛師は
時の人なり **經藏**にかくる轉法輪藏の額 智恩院尊超法親王の筆なり **鐘樓**の洪
鐘 慶安四年五月七日林道春の銘ありて羅山文集にのせたり 惜哉天明五年
四月廿三日に焼失せり今は淺の絵に細井徳民の作ありそれに署す **塔頭七**
宇 惣門より殘門の内の両側に並びてあり **正信院** 竹腰山城守正信建立 **宗心院** 成瀬隼人正
寺尾土佐守直龍建立 **甲龍院** 志水甲斐守忠政建立 **養壽院** 阿部河内守正興建立 **光壽院** 間宮大隅守正


方丈門
鐘楼
井
山門
正信院
光善院
寿命院

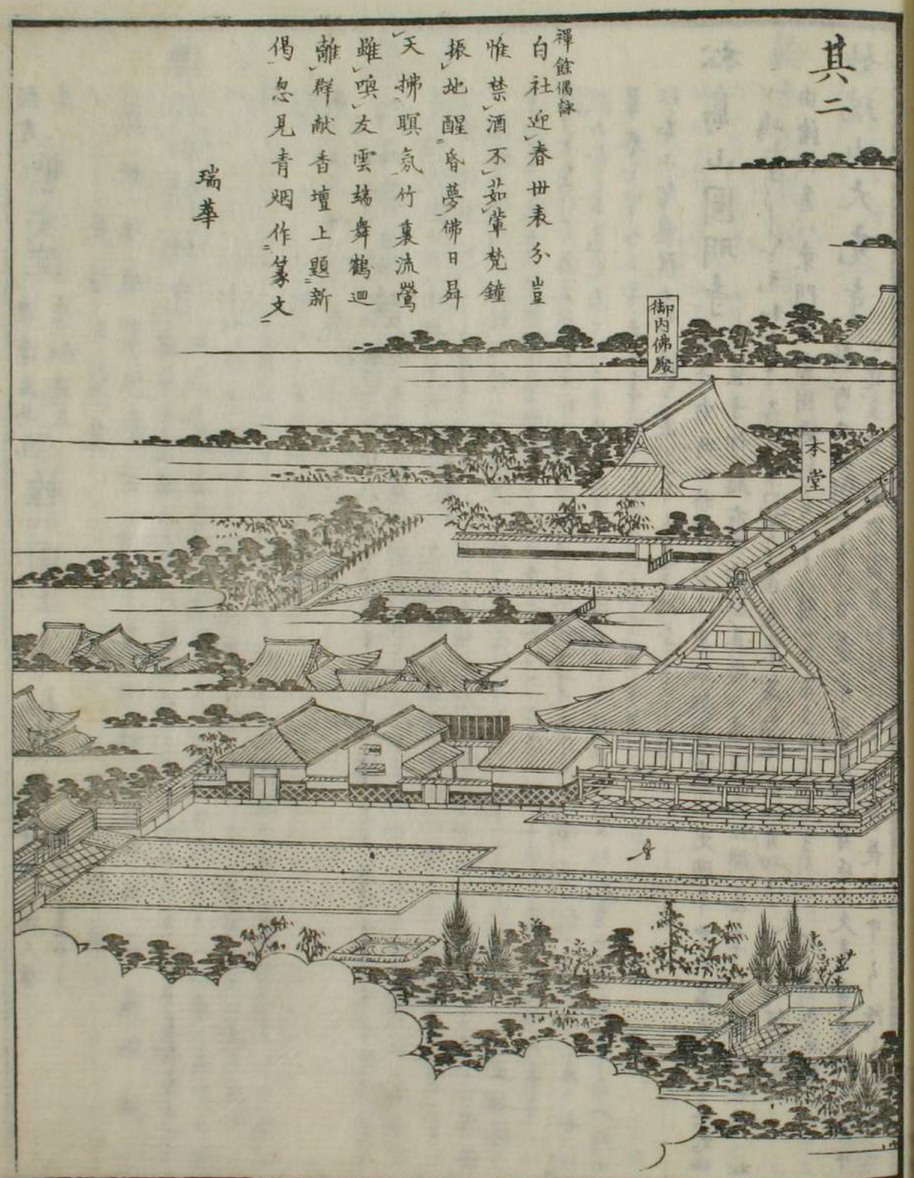

建中寺
大ちい
汾鳴
京心院
甲龍院
長寿院
全慶院
下馬
惣門

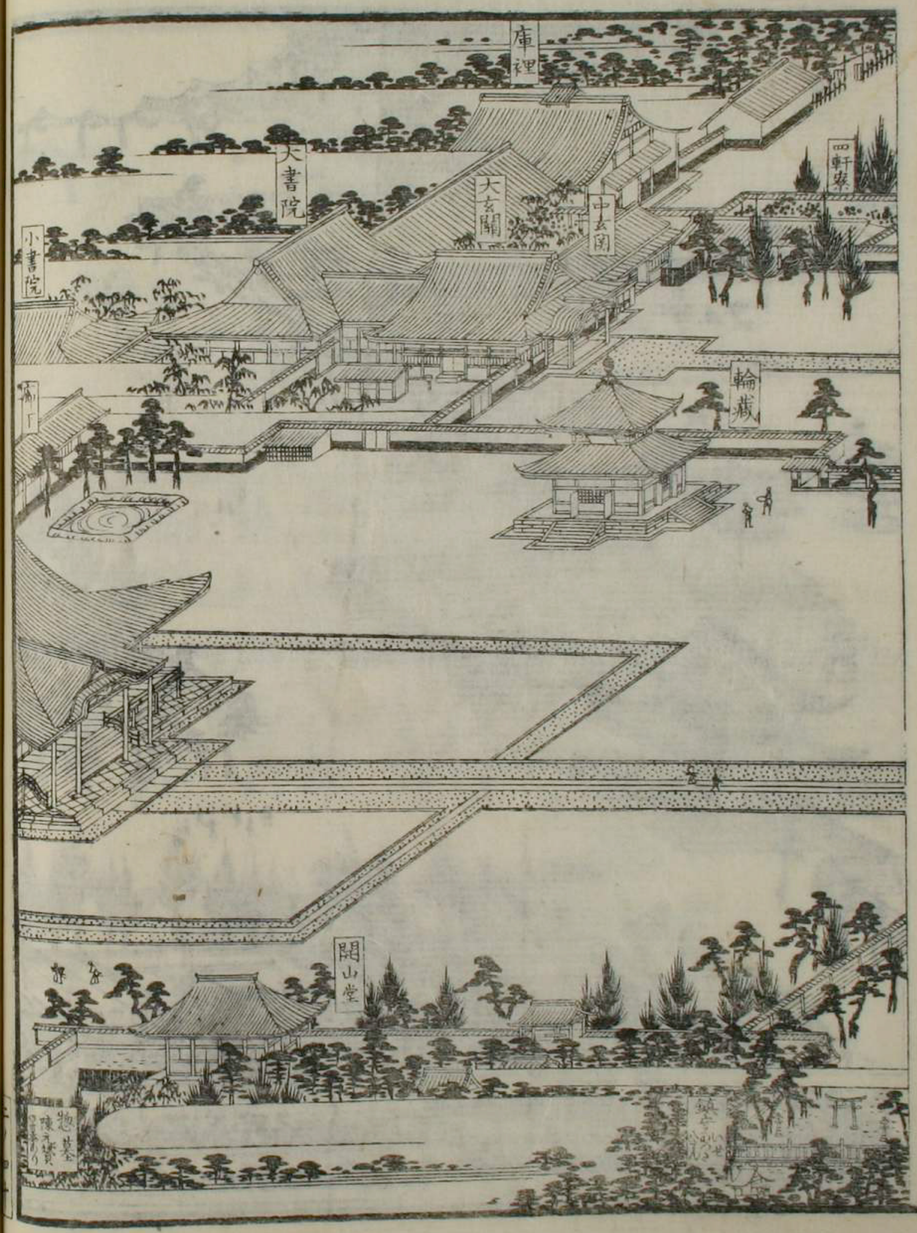
其二

禪館偶詠

白社迎春世表分豈
惟禁酒不茹葷梵鐘
振地醒昏夢佛日昇
天拂瞑氛竹裏流鶯
雖嗅友雲端舞鶴迴
離群献香壇上題新
偈忽見青烟作篆文

瑞華





照建主 誓安院 渡邊右馬允守綱建立

境内に明人陳元贇の墓あり

傳八國上ると云ふ

虎林殊域客舘百餘年 棨酒今日吟詩感斷編 乾堂 陳元贇墓

源頂山情妙寺 建中寺より東にあり日蓮宗甲斐國身延山久遠寺末寺なり長祿年中の建立なり 靈宝 觀音の畫像は長沢芳洲筆 新たに弘通國へたびたび渡るが安南國王に見えし彼王より像かれて持ち來りしと云ふ寺へ寄せし書院の庭ふ古松樹ありこれ亦彼五百余幹の名木なり

谷汲山觀音院 誓呑翁和尚中興開基なり 延宝三年正月十八日真松院尼公御母堂室寺より孫子菩提のため建立なり 本尊 十一面観音大悲大慈の尊像を佛工に彫刻せしむ其佛工文殊菩薩の加被を祈り文殊大士獅子の座より現じ給ひ一夜に功うるとき佛工は夢より覺めて赤栴檀を以て一刀三礼して一尺五寸に記世ると彫刻しおはりぬ又文殊大士に彫刻を祈りし尊像は自ら湧出にて出現し給ひぬ又一尺五寸の多聞天の尊像を彫刻しまします谷汲の本尊と同木同作なり永正の比南寺建立せし時に本山智恩院より使を求めて南寺に安置せしと云ふ

松島山圓明寺 九十軒町の北側にあり東本願寺直末文明年中北畠大納言具教卿の末子伊藤右兵衛尉具俊入道道恵の開基なり伊勢國長嶋松ヶ嶋にありしを元和七年ここに引き移せしと云ふ 本尊 阿弥陀如来 由緒にはバ東門を南國通りに面して建立せしと云ふ 時代は必ず南北朝の比なるべし

妙瑞山大光寺 新町の北側にあり日蓮宗甲斐國身延山久遠寺末天文年中の建立なり上野國名和村に生れしと慶長年中より所々へ移住して

のち西府へ

本尊 法華三尊

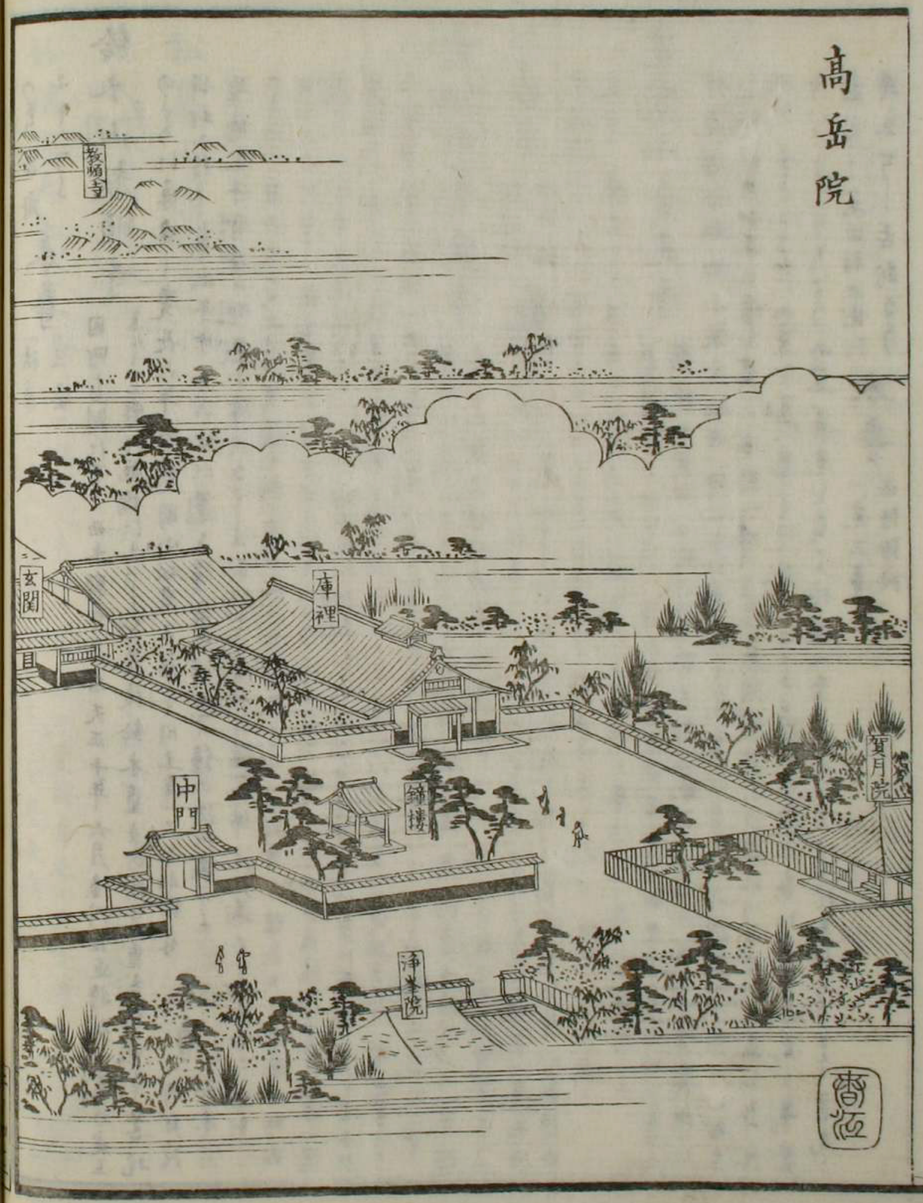
鈴木山教順寺 同町南側にあり西本願寺直末天正十年六月淀川左近将監一盃の建立なり 本尊 三尊 あく上野比嚴橋にありしを其後鈴木重幸の陽明重吉父重幸菩提のために再建し慶長六年甲斐國甲府小松殿より移し今の地に遷す 聖徳太子守壓の御影を降伏あさしめ玉ひて善悪の旅立佛法弘通のため自ら彫刻し給ひたりと云ふ一身の丈一尺二寸比霊像之御作なり 如上人の御作なり 降未重幸 鴻方ともに上人より授けし像なりと云ふ 傳曲の詳悉ハ鐘の銘に載せたり

宏綱山養蓮寺 鍋屋町東にあり 浄土宗京都百万遍智恩寺末 天文二十四年信長公の菩提の為に建立せり 本尊 阿弥陀如来 觀音堂 三十三観音の像を安置す 比寺に參詣の輩多ければ別に堂を建立せり 墓 長久の長臣林佐渡守信勝其父宏綱の菩提の為に建立せり 墓は一石に彫刻したる自然石を用ゐ霊碑及び香爐花筒ともに石塔なり 明暦の乱を避けて南府より來る 國君より平尾氏を賜ひ実ハ曽氏なり代々奉仕して今も祀連綿なり

定覚山善光寺 養蓮寺の西にあり 浄土宗高岳院末 明徳の黒田合戦のち那古野の地にうつり慶長年中清洲城普請の時熱田に移る 信濃國伊那郡小泉庄妹井鄉に本田善光と云ふ者ありて拯済國難渡堀江に巻を得旧を思ふ心ありしかば本國へ帰りしが尾張國黒田の庵につきて荒蕪を開き善光を安置し奉りて仏一尊を負ひ信濃へ至り移住しけるに夜の夢に告げありて善光が宿を一丈四方の地に建立せり 古刻なり 本尊 一光三尊 阿弥陀

高岳院


天光寺
鋳物師
貞祖院
薬湯井
普蔵寺
東漸寺
龍連寺
善光寺
開見山
本堂
稲荷
書院
助正院
芦葉天神
鹿野社
水門


乾福寺
玄関
庫裡
中門
鐘楼
賀月院
浄業院

持名山高岳院教安寺　鍋屋町の南にあり浄土宗京都檀愚院末

郡新府にありしの慶長五年三月七日仙千代君（神君の御子御母八相應院殿）かくれさせ給ひ御法号高岳院殿華窓林陽大童子と奉るを此寺に葬めたまふ同十三年平岩主計頭親吉清須ふるさと本願おもひこころせり○本尊　阿弥陀の三尊　書院（相應院殿の寢殿と）ふるさと方丈とす　惣門　國祖君清須の城門をうつして寛永十九年になし給へり　鎮守熊野社（三社權現の木像を安置す）　鐘樓　塔頭（浄華院　賀月院）

佛法山東光寺　禪寺町淺に町北にある西側にあり浄土宗京都知恩院末　本尊　阿弥陀の座像　藥師堂（本堂の北にあり小牧山にうつす）

寺僧にしるせるごとく火災とさけ叡の中比緣葉の上に安座しおはしまし名づく冬に風来寺比本尊と因木として丹羽郡稲木庄杉御堂にあり古佛也今八条氏某仲と称し痂瘡の病苦を救はせ給ふ故に其恩あるを以て堂あふ小牧うつすと

鸛嶺山含笑寺　東光寺北南にある東側にあり曹洞宗万松寺末享禄元年織田伊後園の林泉を愛賞ましまし又ときも隠居所大榮軒ハ同町北の方にあり　本尊　釈迦の座像

泰崇山永安寺　同町駿河町の南にあり曹洞宗三洲村正眼寺末木下肥後守豊臣利直法号永安寺殿菴道松の建立なり海東郡木田村小

寺あり　本尊　聖観音の木像

本光山長榮寺　永安寺の南にある西側にあり日蓮宗京都妙満寺末寛文八年國老成瀬隼人正正親の母榮壽院の菩提の為に建立せる所なり

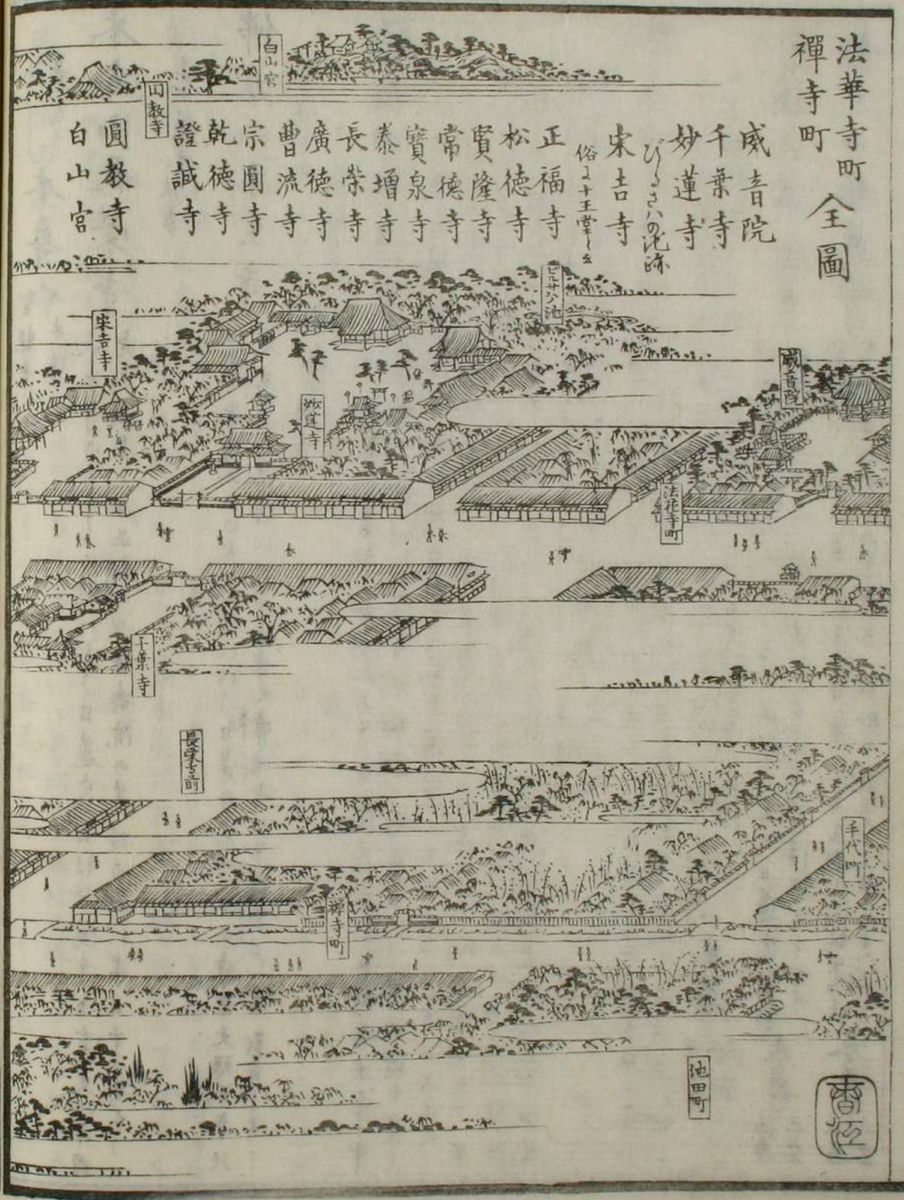
本尊　法華三宝

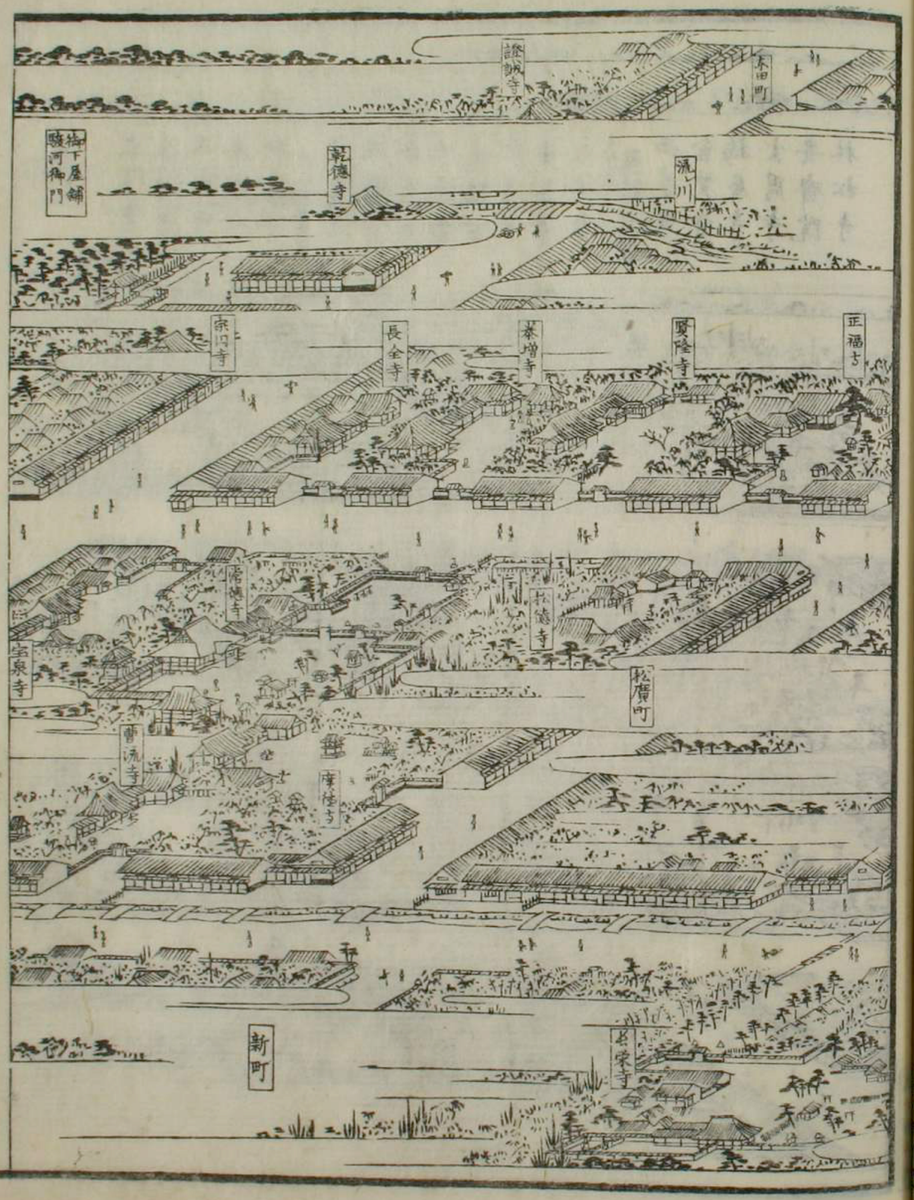
佛力山本立寺　法華寺町の北の方東側にあり日蓮宗同町本正寺末文禄元年此建立ありて清須にありし寺之常唱堂の不断題目ハ常題目と号し元禄九年十月六日より興起す

本尊　法華三宝

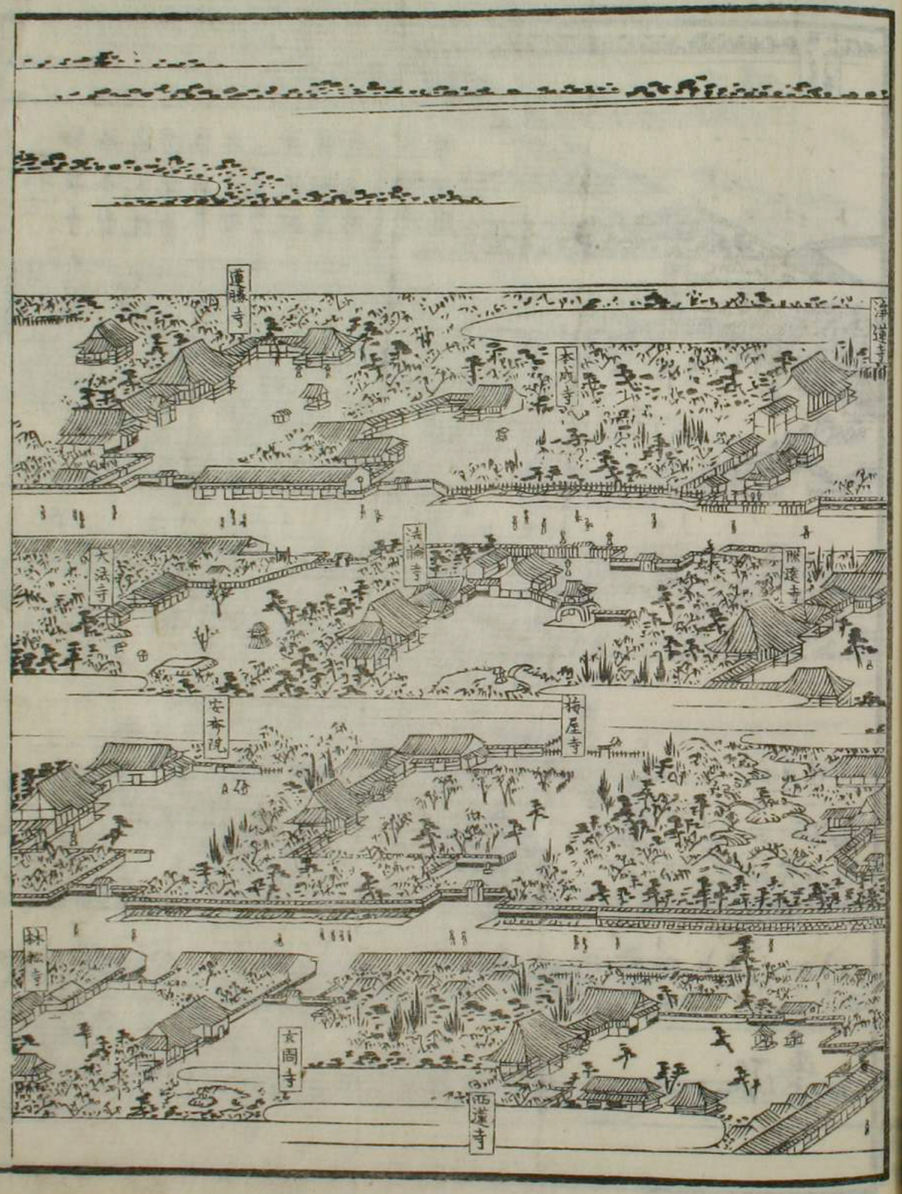
妙長山照遠寺　本立寺の南ある西側にあり日蓮宗京都本國寺末りし中島郡下津村にありて尼妙長が開基之ありし時旗僧日蓮上人の木像を携へ来りて妙長に授けて去りぬ其像北日に及永十発酉年の文字見えしうつし上人自ら彫刻の像なる事を知るとのちに移轉してうつしたてまつる堂とせり」とのちに移轉してうつしたてまつる堂とせり」とのちに移轉してうつしたてまつる堂とせり」と

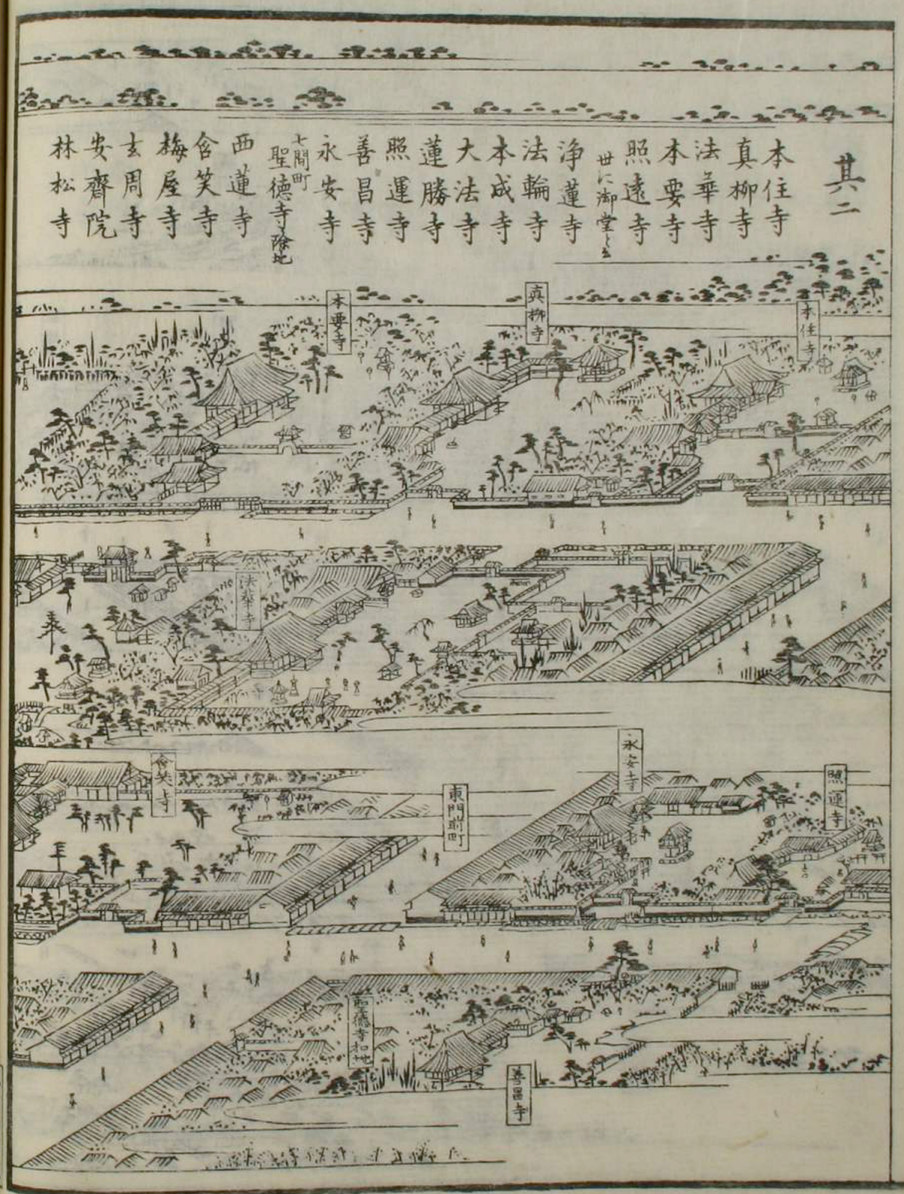
法華寺町 禪寺町 全圖

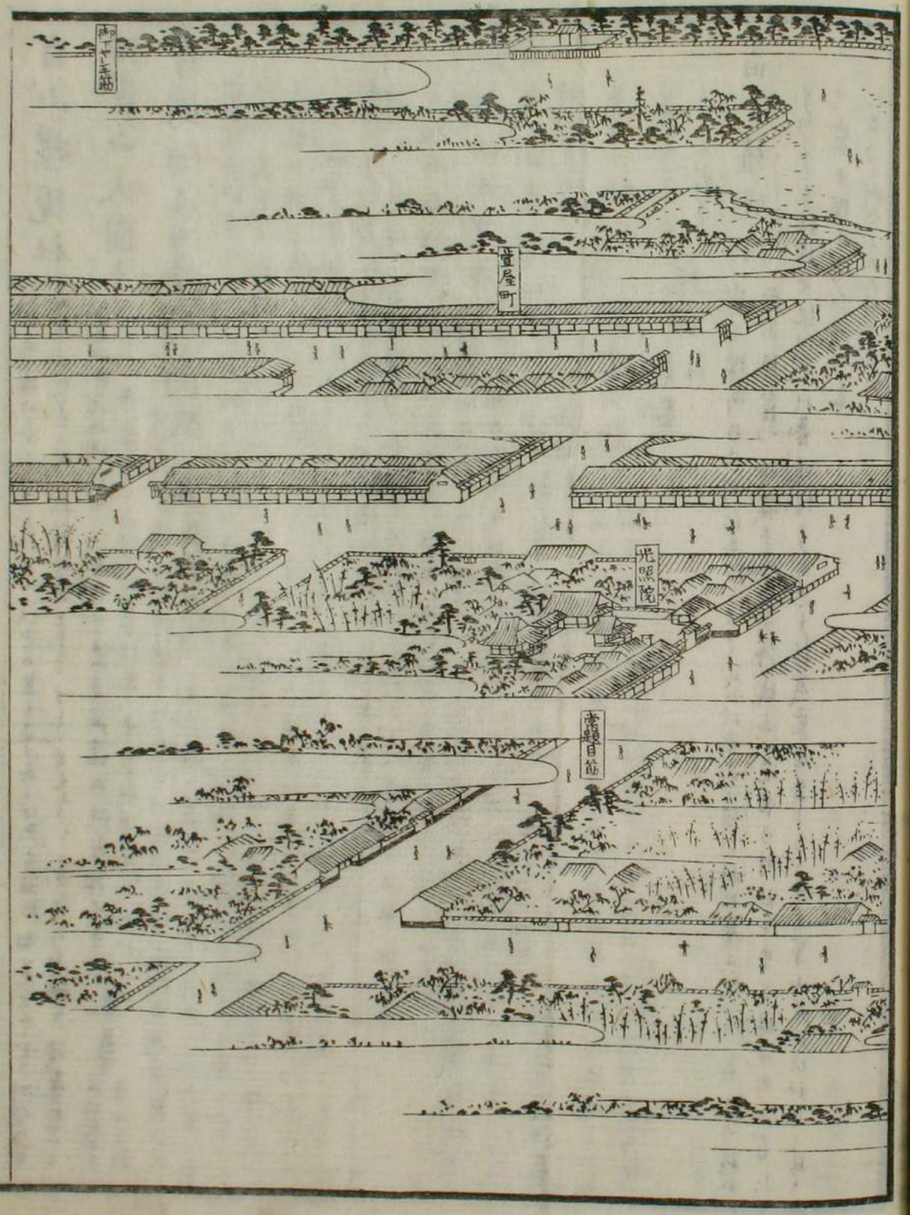

白山宮
同教寺
宋吉寺
正福寺
松徳寺
寶隆寺
常徳寺
寶泉寺
泰增寺
長榮寺
廣徳寺
曹洞寺
宗圓寺
乾徳寺
證誠寺
圓教寺
白山宮
成喜院
千葉寺
妙蓮寺
びくさいの池跡
俗よんでお堂ノ池
法花寺町
十禅寺
長安寺町
神宮寺町
寺内町
池田町

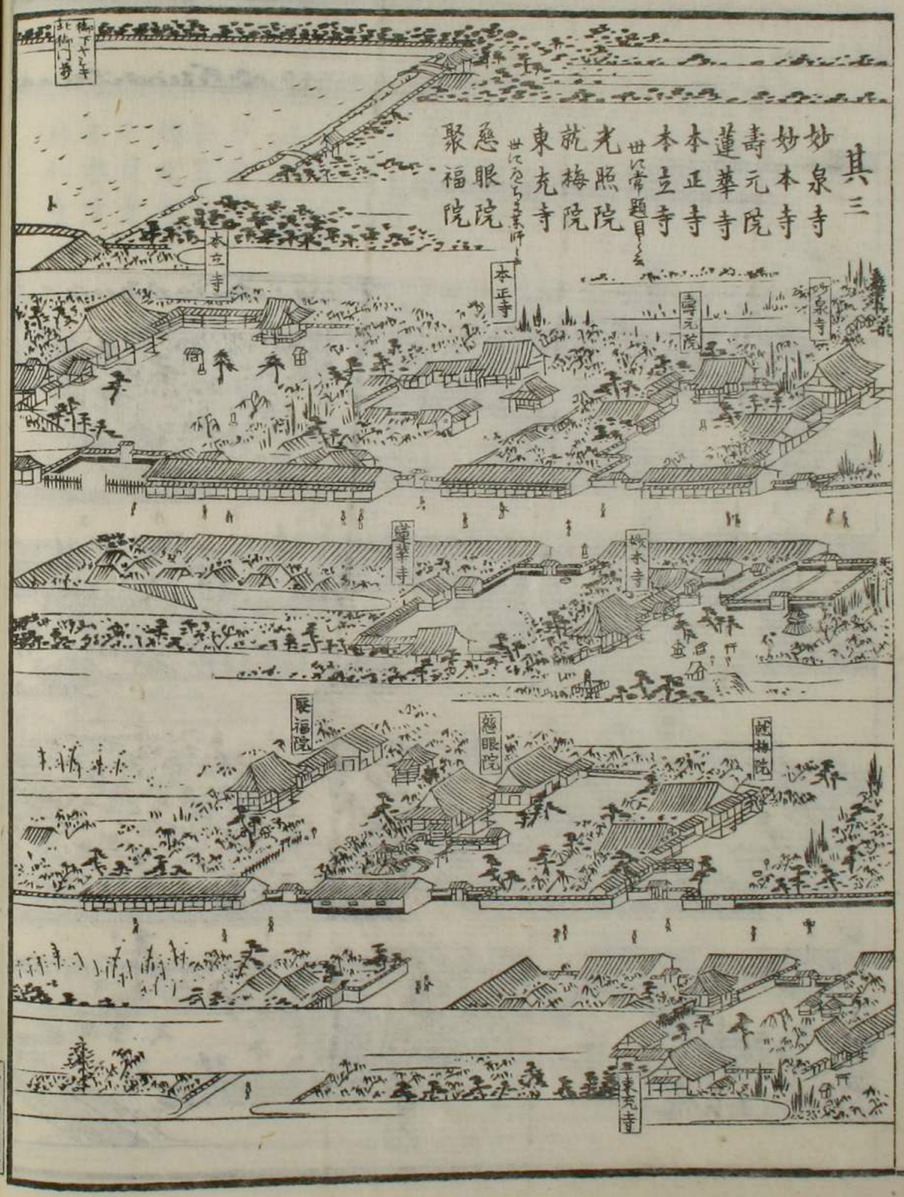

證誠寺
東門
梅下屋敷
駿河御門
乾徳寺
流川
宗円寺
長全寺
泰增寺
賢隆寺
正福寺
常徳寺
寶泉寺
十禅寺
松廣町
曹洞寺
廣徳寺
新町
長榮寺

本住寺
真柳寺
法華寺
本要寺
照遠寺 世に御堂と云
浄蓮寺
法輪寺
本成寺
大法寺
蓮勝寺
照運寺
善昌寺
永安寺 七間町 聖徳寺ノ除地
西蓮寺
含笑寺
梅屋寺
玄周寺
安齋院
林松寺






御下之手前
萱屋町
光照院
宝鏡寺門前


其三
妙泉寺
妙本寺
寿元院
蓮華寺
本正寺
本立寺
光照院
就梅院
東光寺
慈眼院
聚福院
御下之手前
本立寺
本正寺
寿元院
妙泉寺
蓮華寺
妙本寺
聚福院
慈眼院
就梅院
東光寺

白山權現社 弦巻町通の東小山の上にあり此地の生土神なり例祭六月九日并ふたりて町々より神輿を出す

法榮山大圓寺 麹町十丁目西側にあり本宗寺末東派濃州岐阜浄土寺末 **本尊** 阿彌陀如来 高三尺 行基菩薩作 脇立 観音勢至 作者未詳 開山 了譽上人 開基 大久保相模守忠隣 寛永十年寂 法名 大圓院殿前相州大守安譽上人 忠隣の墓 寺内にあり 忠隣の子 大久保加賀守忠朝 法名 大圓院殿前加州大守安譽上人 忠朝の墓 寺内にあり 忠朝の子 大久保出雲守忠職 法名 大圓院殿前出州大守安譽上人 忠職の墓 寺内にあり 忠職の子 大久保佐渡守忠鄰 法名 大圓院殿前佐州大守安譽上人 忠鄰の墓 寺内にあり 忠鄰の子 大久保佐渡守忠興 法名 大圓院殿前佐州大守安譽上人 忠興の墓 寺内にあり 忠興の子 大久保佐渡守忠方 法名 大圓院殿前佐州大守安譽上人 忠方の墓 寺内にあり 忠方の子 大久保佐渡守忠胤 法名 大圓院殿前佐州大守安譽上人 忠胤の墓 寺内にあり 忠胤の子 大久保佐渡守忠真 法名 大圓院殿前佐州大守安譽上人 忠真の墓 寺内にあり 忠真の子 大久保佐渡守忠恒 法名 大圓院殿前佐州大守安譽上人 忠恒の墓 寺内にあり 忠恒の子 大久保佐渡守忠朝 法名 大圓院殿前佐州大守安譽上人 忠朝の墓 寺内にあり 忠朝の子 大久保佐渡守忠寄 法名 大圓院殿前佐州大守安譽上人 忠寄の墓 寺内にあり 忠寄

小袖塚　鍛冶屋町通鵜童町の北辺東側の高家の裏にあり



大和國宇知郡の住人土方太郎季治より傳来ころ紀愛寿人覚如上人ところ代ころれまま及び　将軍家綱伸ころの時自ろまも教多ぼころれを畧す

塔頭　光雲寺

恵日山光圓寺

大津町通小松町西角にあり東本願寺直末延徳元年太田某創す　善西ど號す　頼信後徒五位下武蔵守に任す薙髪し蓮如上人の弟ろしあり善西ど改め当寺を創建して海西郡中田村にもーどころ又津辻市の北ころふりつぢろる裏に唐櫃村ぬ丈宇尺ころうハ此寺ろーろころ伊勢國桑名郡香取庄塵浪波小村ろう海西郡茨江の中田にろもろる之り

本尊　阿弥陀佛

行基井の弥先祖の主像

靈寶

一振　教伝石おの刀

六字名号　蓮如上人善西へ託念ぶまま

阿弥陀佛尊影　実如上人眞眼ありてころに延徳元己酉年月日又永正二丑年

と自筆ありてあ度まぐ記せり

教如上人壽像　自筆の賛及び名号ありぐ記せり

名古屋光善寺に掛目幅ころへを引ころ比あるぬ　裏篇　忠善寺ころる石井家ろりの寄附之

清けき窓に詠まる月影ハ西へ西へと行宣卿

究竟山圓輪寺

袋町筋大津町西へ入ル北側にあり浄土宗京都浄華院末り正覚院ころて真言宗の廃寺の跡に延享二年六月開通上人中興改宗ころて今此寺ろころ開通宇ハ無礙海西郡大成の人俗姓横井氏幼年ろり寺代の名僧ありて江戸浅倉高幼ろど称ぢーキ七ろ一派ど開修ーぬ寺に住ぢり一事ハ開通和尚行業記に尽ころ称名ぢ声息鐘の音昼夜絶ぜねハ衰に算通上人の俗先ろり今も称名ぢ声息鐘の音昼夜絶ぜねハ衰に算通上人の俗先ろり今も

本尊　阿弥陀の尊像

内宮の末社御祈念佛ころて

修験繁昌院　伊勢町通袋町下ル西側にあり浄土宗京都浄華院末り正覚院ころて真言宗の廃寺の跡に延享二年六月開通上人中興改宗ころて今此寺ろころ開通宇ハ無礙海西郡大成の人俗姓横井氏幼年ろり寺代の名僧ありて江戸浅倉高幼ろど称ぢーキ七ろ一派ど開修ーぬ寺に住ぢり一事ハ開通和尚行業記に尽ころ称名ぢ声息鐘の音昼夜絶ぜねハ衰に算通上人の俗先ろり今も称名ぢ声息鐘の音昼夜絶ぜねハ衰に算通上人の俗先ろり今も

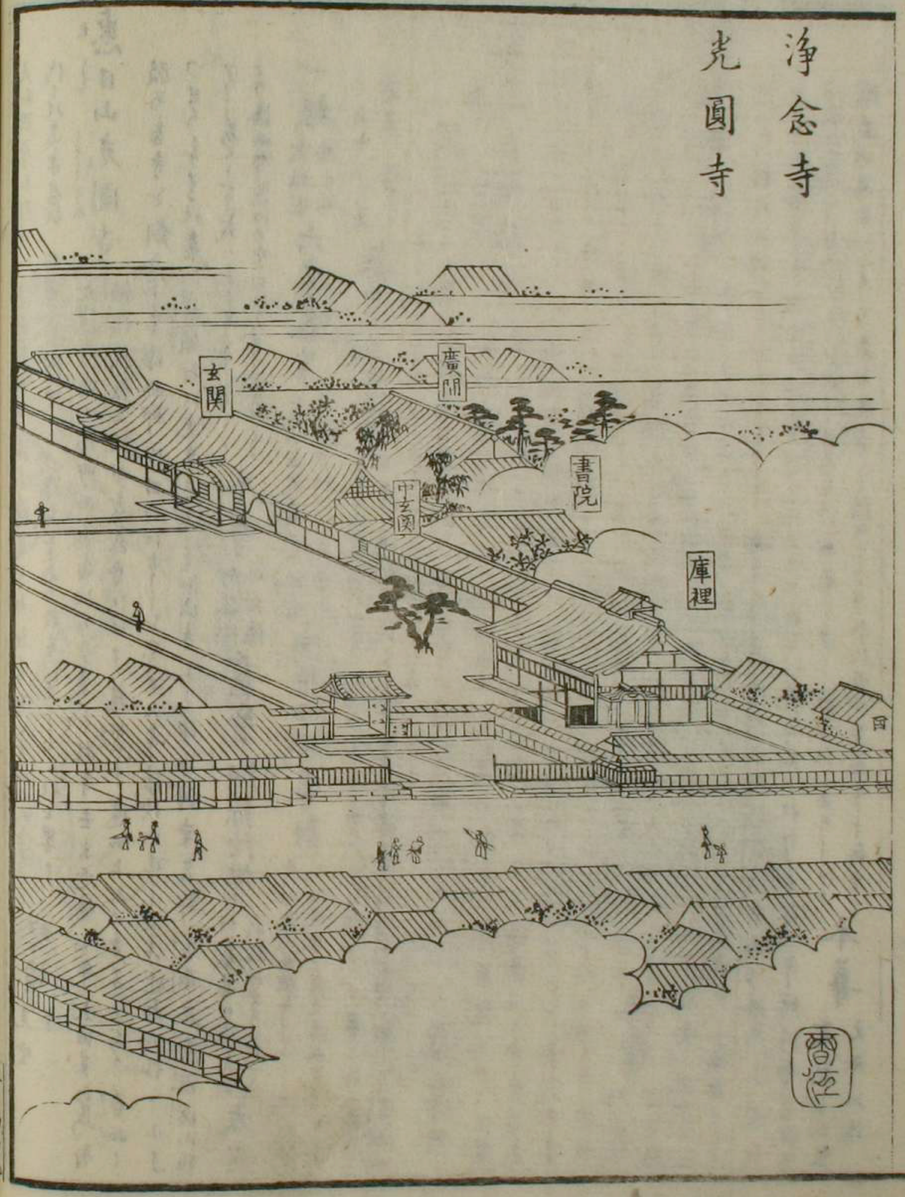
子良子十七夜ころる女竟永年中ろ有て　内宮と退去ーぬ國司ろ伊勢来ころ八幡宮の神子ころりてもーぬ　國君御祈念社御祈念所におそ神楽法供ろりぬせら

本尊　聖観音

ぢ一時前日ぬ巫女を待尋ころりてぬーに絶ころりぬ十七夜ど呼ぬ七夜ぢ聲


瑠璃光寺
本堂
寺中
鐘楼
鼓楼
経藏
茶所
鼓楼
鐘楼
光圓寺
茶所
手水ヤマ
本堂
書院
座間
玄関
庫裡

浄念寺
光圓寺


玄関
座間
書院
中玄関
庫裡
書院

產前產後二母散

呉服町一丁目西側にあり婦人科奈倉氏家傳此妙薬あり
清次にあらず信長の医師の功を考て太刀一振を給ふ
しより九に二ツ引の紋を賜ふ奈倉と称す奈倉氏の家紋十今十一代
うそ相違後うら奈倉と称すの三四家ありすべて此家を宗とす

七寶山小篶原聖徳寺

七間町通袋町下ル西側にあり東本願寺直末代院家なり

人此寺を羽栗郡大浦うら尾張の北にあり天正十二年より美濃に移る

清和源氏甲斐國巨摩郡の住人小笠原長頼難波一を八の伊予守

と住持して七種の霊寶を附与ありし古刹なり永正年中中島郡富田にうつり

又大浦へ移るつゐに同郡刈安うら天文十八年信長に謝被遣三ツ當

田の聖徳寺を集合ありしより此寺を

再び當府うつる○本尊

阿弥陀の木像安阿弥作

大師遺骨開山十字名号開山鏡影像是を

七寶

鶏九觚松見蓂白龍樹菩薩眼睛天親菩薩舎利墨寶

七宝うつし成外宝あり古詩文制札ども多し

陳元贇の筆文と附属うつたのうつし○境内に信正院君の御墓あり

經藏

黄檗板の一切経を納む

鐘樓

鐘ハ寛文二年九月人

尾州聖徳寺鐘銘 叙

尾陽聖徳寺者親鸞聖人之高弟開善師始肇基於濃州雄遷尾州旋復歸阜錫於濃州厥後改阜於今讃屋蓋十二七傳於玆矣頃丁灰劫之變賴衆檀力不日化宇重新鐘簴再整鏗然闔闇之中四境特以昏曉焉其十七傳之法孫諱顯應者與余爲方外友乞余俗諱一言而銘之爲辞謹布數言以叅其意而然方外良友不敢以凡鄙辞上

永揚善師之声教云 銘曰

聖徳肇興善師開宗
法無常住襲屋是営
琳宮司漏多乳鳴銅
百千萬劫聖徳善功

昔

寛文貳年壬寅季春上浣三日
大明虎林戴髪俗子陳元贇 拜撰
亀工 水野藤原政長

渡邉山守綱寺

任吉町本願寺末の院家なり

慶安二年國老渡邉筑守

守綱菩提のために其嫡孫治綱の建立なり僧惠頓を開山とす
參河國加茂郡寺部氏の領邑なりしより守綱寺
うつりうつり惠帯す○本尊阿弥陀の立像

東海山白林寺

古堀ちせ南東にあり陸海宗永妙心寺末

國老成瀬正成法名白林寺の菩提の為に

國祖源敬公寛永二年に艸創ありしより蘭叟和尚を開山
うつして明暦三年七火災に焼失ぢのち正成の嗣子隼人正
再建なり○本尊釈迦の木像 鐘樓寛文元年の造立

經藏

隼人正正親と文正
庵法名一岳退福の

聖徳寺

次の見開

百非道人

珠綱玲瓏七寶林　半空法鏡映来深　最憐磬尓曇華雨　使客長證不滌心

名古屋西佐寺ハ
浄家ゆゑと承りて

貞柳

さまざまにうき世をこゝろにかけねども
こゝろハこゝろ髪
こゝろ洗ハん
ゆゑなれバ





守綱寺

看守綱寺棣棠花　乾堂

棣棠千畝著花濃　葉上黄艶萬玉叢　繁英遍開前日雨　嫩枝輕動晩天風

ちぶさもて山吹とこそ
　　茂岳
こゝのいひけさつふき
　ちよ山ふき乃
花の色こそ
　おもちかしくもあれ



為に鵜飼を造立し清朝校の一切経を納め一品の肖像を安置す　塔頭　恵照軒

瑞雲山政秀寺　白林寺の末寺にて同宗同末　天文年中平手中務太輔政秀菩提の為

信長公此建立　沢彦和尚を請じ開山とし　沢彦俗称を信秀の求めによりて平吉法師九の諱を信長と号けるを信秀の為にうらなひ出せりに沢彦吾て出らば我玉比本名技業之侭に天下を得らん下の字を山ふきの花の色こそ四十八歳をまつ堂とよめり信秀の寵愛事あり一入深に寺代の先祖とす又永禄四年信長公此を信秀那ぐて信長の父八葉之葉八蚕の為に桑の実を初八四十八ある所佛徒佳兆とす　天下八掌握あるべしとて社あり飼子にいらさ暇ダ為に事あり命にて稲葉山代城地并水口を改めて波年〻又公に布武天下の印章と指上げしも皆成沢彦うら

鐘楼　平手政秀墓　法名功巌宗忠大居士

普峯院殿御墓　廣幡大納言忠幸卿の御墓也

寂光山勝鬘寺　大津町の南にあり末寺本教寺末の院家三河國額田郡針崎勝鬘寺の悪帯御引て天正年中の創建なり　本尊　阿弥陀の立像

徳壽山清浄寺　無量院　前津小林の夫場町にあり　浄土宗鎮西派名恩院末

東郡津島うらうて鄽龍和尚に賜る

○本尊　地蔵堂　天仏にて世に多し

もにて山城宇治の平等院鈎殿の本尊あしが彫て元禄八年此寺に安置す　碑面文字滅してよみがたし　牧田の圓福寺過去帳に牧氏の法名ありて長清院梵阿弥陀仏元亀元年庚午　天正五年丁丑　長清院八牧与三左衛門尉源

○本尊　牧氏の墓　石塔二基

阿弥陀仏定朝作服士観音勢至

寂光山勝鬘寺　針崎勝鬘寺の悪帯御引て天正年中の創建なり　本尊　阿弥陀の立像

徳壽山清浄寺　無量院　前津小林の夫場町にあり　浄土宗鎮西派名恩院末

東郡津島うらうて鄽龍和尚に賜る

○本尊　地蔵堂　天仏にて世に多し

もにて山城宇治の平等院鈎殿の本尊あしが彫て元禄八年此寺に安置す　碑面文字滅してよみがたし　牧田の圓福寺過去帳に牧氏の法名ありて長清院梵阿弥陀仏元亀元年庚午　天正五年丁丑　長清院八牧与三左衛門尉源

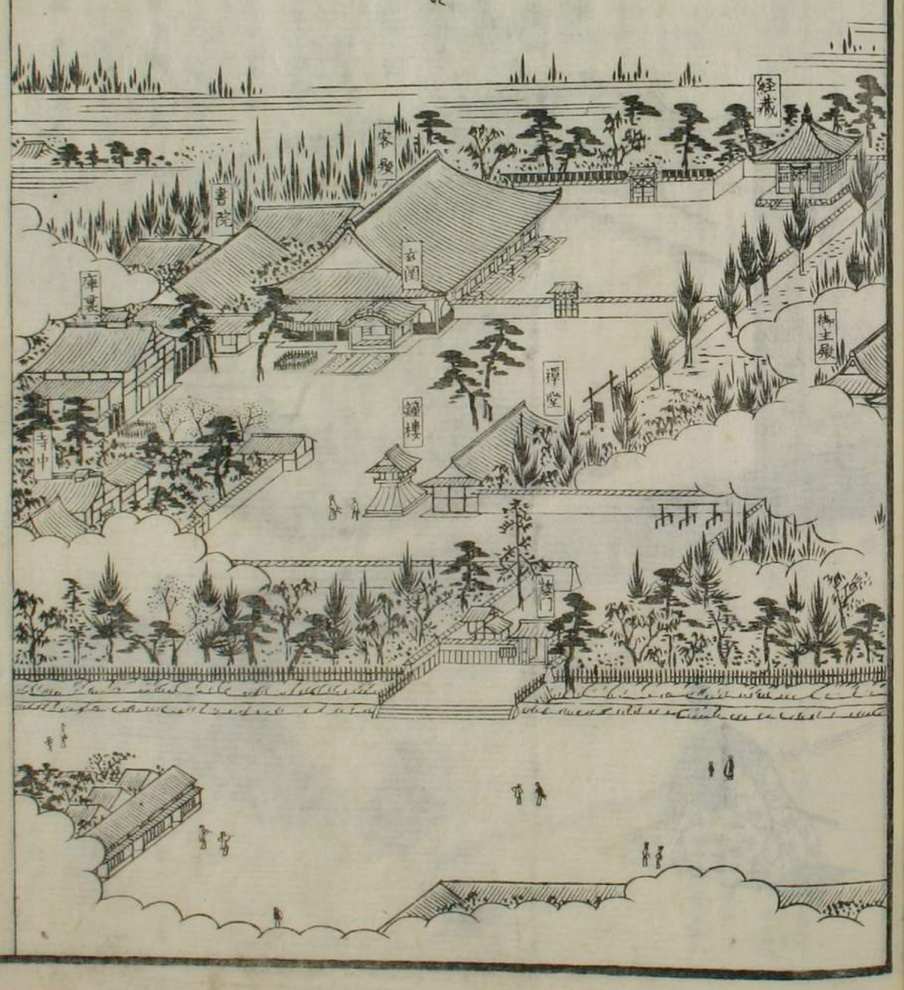
政秀寺

平手政秀の
墓ぞ
仲敏

ふる川の
くちぬ
名こそ
この石ぶみ
こころとゞめ
かく足
ありく洲



白林寺



淡屋

雪ふみ
かきもれ
ぬる
埋まゝ
白き林に
ちの入あ



織田信長の幼年の時放逸
にして沙踈ふるまひ多く
老臣平手中務太輔政秀
諫書をないきりて諫死
せしより爲天文二十二年春
日井郡志賀村にて政秀
自殺するにおゐて公是
非を悔い行跡を改め給
沢矣に今にて政秀寺
と建立その菩提と
弔はらるゝしとぞ織田
真紀信長記絵見記
等此説書にみえたり

長清信徳院八回人室信長之此時まで信雄その
殿しあるハ此時人ならん長清ハ小林の古城しるふもの
ありハ此時人飯尾の達人ならん

柳生兵庫居住地

清浄寺此地内にあり此地
藝のある名ふるものハ多くハ此地に
ひらく我用にたゝるもの世に柳生つゞと名づけて
多く製す其称あり

世人誤て疝気せりと

三輪明神社

清浄寺の南にあり牧氏の建立と
創ハ八月十九日夜神系と奉ず

醫王山東泉院

前津三輪町の西側にあり
曹洞宗古井村光正院末
國へ帰る法附馬後雨に
蔭光を救ひけるに此所堂を營けて
堂光を救ひけるに此所堂を營けて堂を造立
清浄寺裏門の南にあり假山園池等
幽趣ありて亭上此地をもお
て此地より南富饒の人の
別荘多くまの次を人多し

本尊

某仰如来行基の作みて此地
急に至る一時製田の方うり信濃
ぬき多霊ありとぬき霊ありて
芦御堂の某所に移す

橋の寮

清浄寺裏門の南にあり假山園池等
幽趣ありて亭上此地をもお
て此地より南富饒の人の
別荘多くまの次を人多し

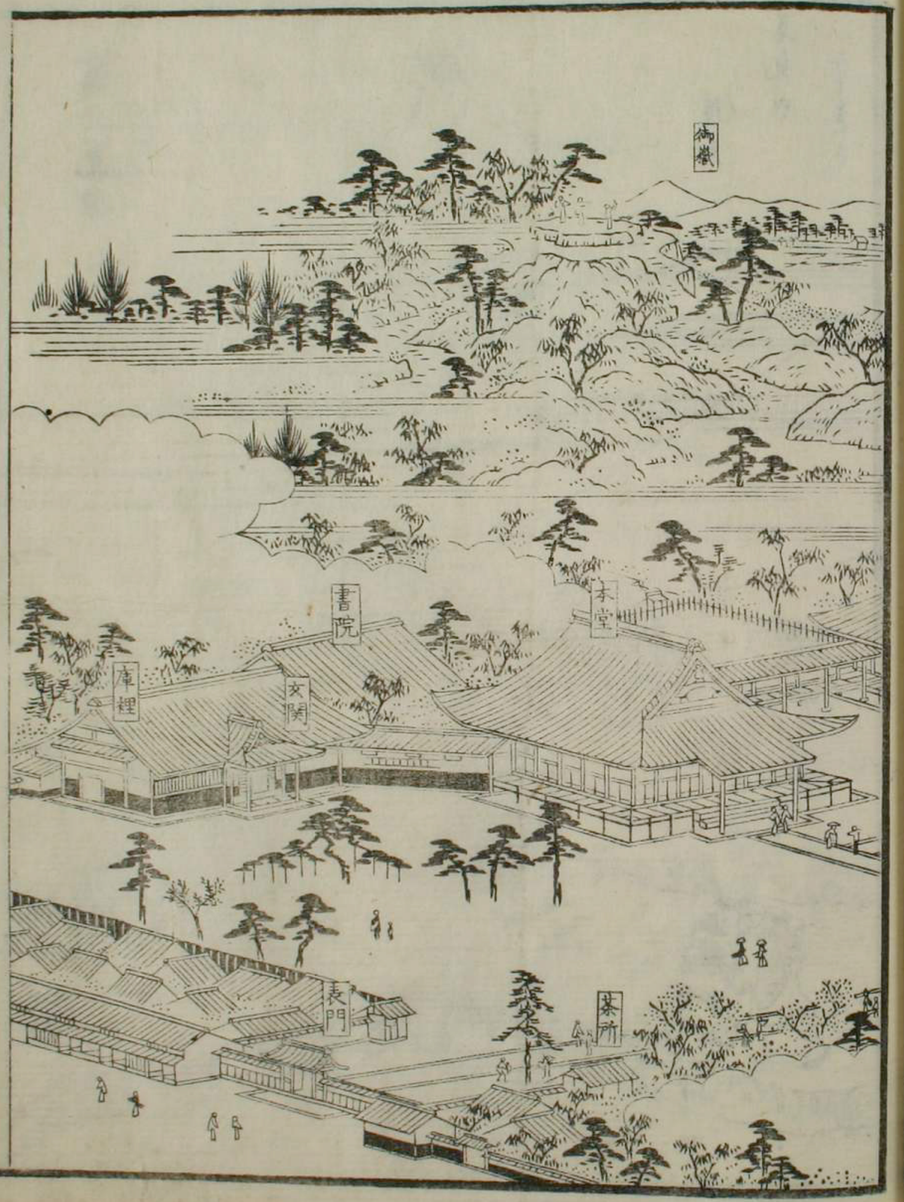
富士見原

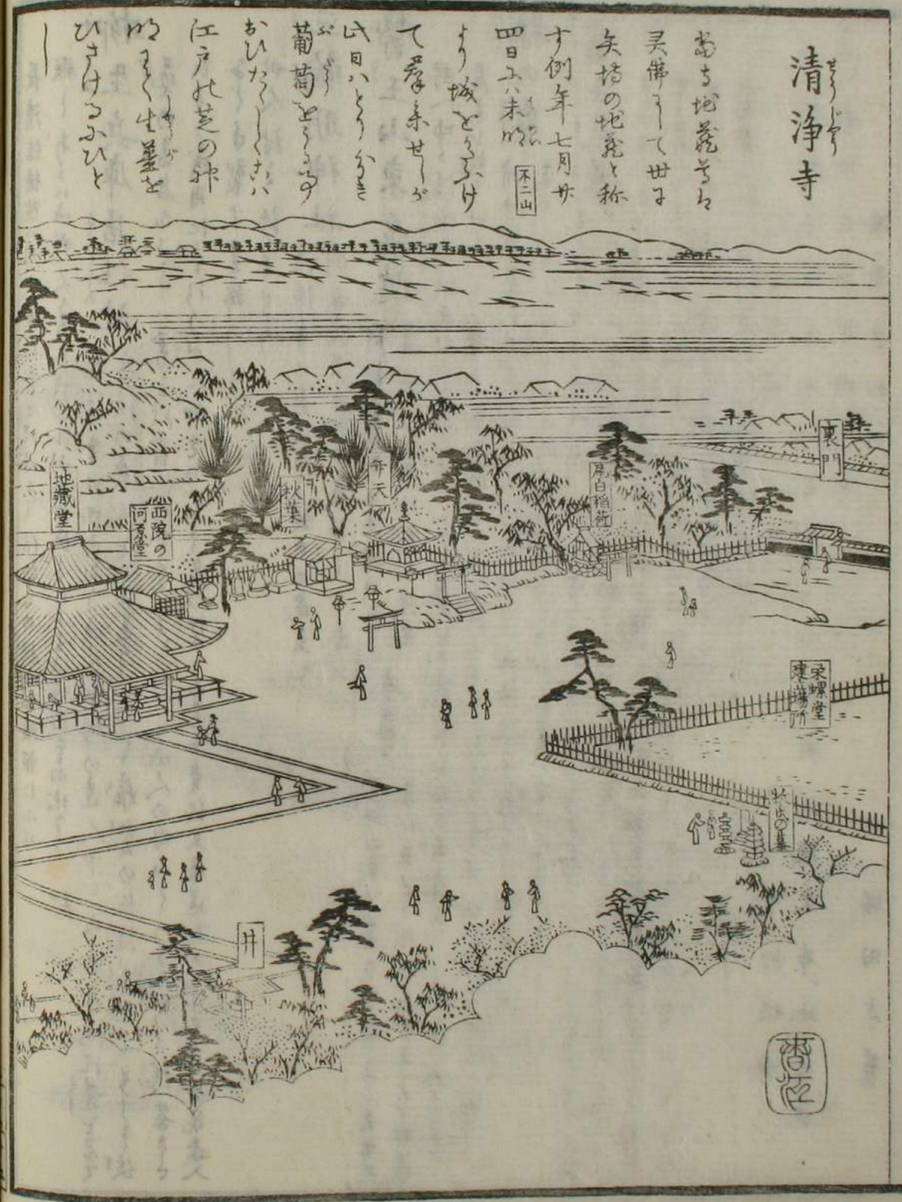
あり此中の切の東北高くきて東南の
せバ猿投山大竹山の名に富士山かけり
せり又此をふもとのかく援井暮水翁別荘と接
せりまたく人南此ある名の張家廿八人よ七勝の吟源
挙てまた余ハ濁らん歌栖の名所ハ君山峨眉あ翁の
如南亭記及び暮水翁雑文の七絶記ありに見えたり

東巓孤月　千村伯療
猶抱巓頭暮色収　月華初吐大於鈎　須臾布地金波
通映出前津種・ニ秋　堀田方舊
路傍古松

清浄寺

当寺地蔵尊ハ
霊佛にて世に
矢拾の地蔵と称
す例年七月廿
四日六斎(ろくさい)[不二山]
より城どうふけ
て参詣せしが
弐日ハとうかき
葡萄(ぶどう)どうろう
おびたゞしくたゝ
江戸名所の外
のうく生姜(しやうが)を
ひさげうるひと
一





富士見原





百尺古松三四株龍鱗舍ㇾ雨接ニ天衢ㇾ歲寒猶惹吟嘅
興何渾ニ風塵ㇾ伴ニ鄙夫ㇾ　千村景臣

蓬五畑樹　五彩雲生洞裏天鬱ニ葱烟樹ㇾ栖ニ神仙ㇾ因思蓬島隣ニ南
浦徐福當時來繫ニ船　橘隱

海天新雁　粧ニ點海天空澗秋數行新丁下ニ芦洲ㇾ水雲萬頃無窮
景載ニ夫載來多少舟　全嵩

雲擁ニ上方ㇾ一路通華　鯨吼破野村中使ニ人幾度發ニ深
省ニ應ㇾ是神龍護ニ梵宮ㇾ　須賀精齋

市門曉雞　市門霜白曉星沈紅日欲ニ升影萬尋屋上聲鷄時已
報ニ炊烟ㇾ處ㇾ〻裏菁森　半掃庵

鄰舍春歌　知兩亭唯北有ㇾ鄰陳墻結ㇾ竹共孤貧抗ニ頭憂ニ斷春歌
近猶識ニ夜闌ㇾ未ㇾ寢人　山村良由

清音移詩抄憶昔　前津別業　春風十二樓園林今日草堂幽誰知白玉扉前
月還照　青蘿帳外秋

三河海北岸のまちより西にひくき山の上

大池　名津の東田面にあり　東のころハ拙人多く児をうえて風まをひげくあらそふ　ゆゑの事と故
るゆへハ濁の韓信が丈夫よりもおこまろうおもふ郎に思を寄まろうより多くこまる製作のゆゑ

醉雪樓　名主兄のもにうり東郊にのぞめる真砂て風景たぐひなき僧ニ庵多
なり書画會等の雅遊と張るによるしるし　拙人書にそゆるすり

醉雪樓醉歌　秦滄浪

花鳥風月無ㇾ不ㇾ醉今入ニ此鄉ㇾ倩誰醉一杯〻〻醉引
醉三斗亦醉五斗醉温克之身宜純醉吾輩其人何
不ㇾ醉曾讀陸尭十二醉無ㇾ如ニ八仙青蓮醉任ㇾ它平泉
不ㇾ解ㇾ醉憐此右手螯提亦私ㇾ醉誰向周郎醉竹
欲ㇾ問ニ我善醉一月二十九日醉　得ニ五月梅雨ㇾ醉如君
甲申仲冬同ニ諸君ㇾ飲ニ醉雪樓ㇾ　大窪詩佛

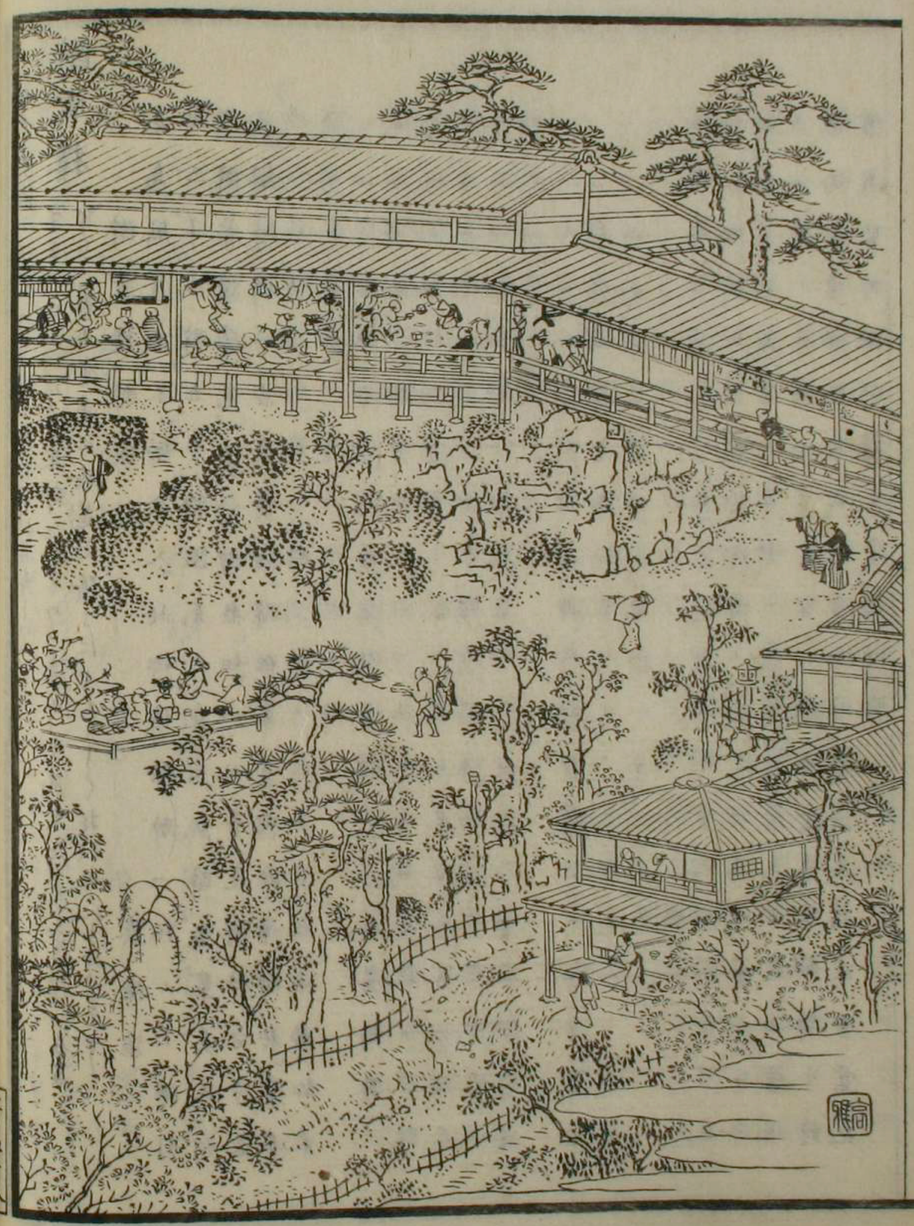
城外酒樓號ニ醉雪ㇾ故人相招衝ニ来雪ㇾ我在ニ越山ㇾ日阻ㇾ
雪何図今日此賓ㇾ雪作歌乍来如ニ春雪遠看如ㇾ煙近
是雪茶熟ニ石鼎ㇾ香湧ㇾ雪騰成ニ銀鱉絲堆ㇾ雪坐中吟咏
皆白雪客愁都似ニ湯沃ㇾ雪　六十老翁兩鬢雪醉雪樓

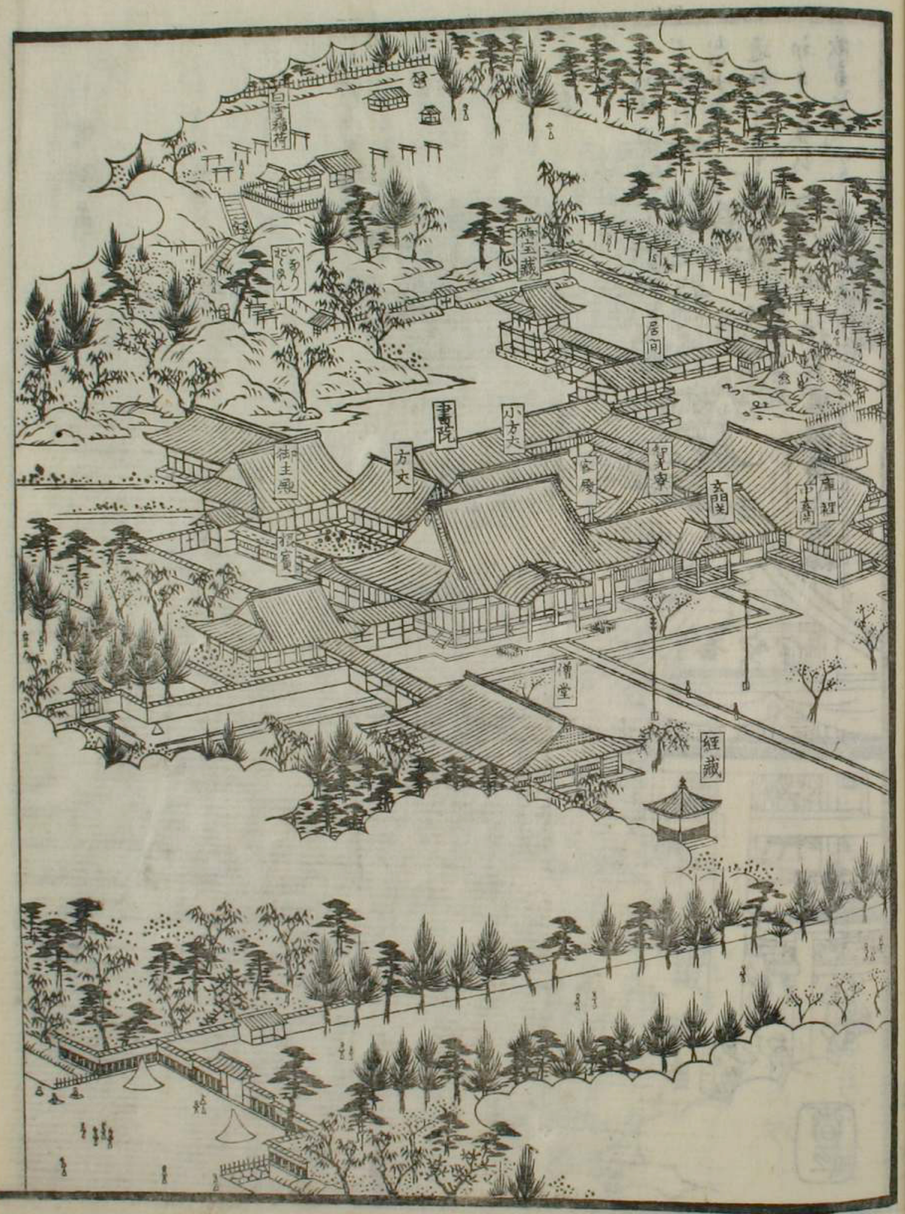
頭来醉ㇾ雪　已丈仲春同ニ諸子ㇾ遊ニ于醉雪樓ㇾ〻主人出ニ滄浪
詩佛兩翁之二篇ㇾ賦ニ醉歌雪咏之二大幅ㇾ示ㇾ余〻亦併
醉雪樓頭往年ㇾ雪滄浪賦ニ醉字ㇾ佛賦ㇾ雪　精一

毫浪賦ニ醉字ㇾ佛賦ㇾ雪　醉雪樓頭兩翁醉ㇾ雪坐走
醉ㇾ雪醉雪二篇今猶存吾輩今日非
亦醉ㇾ〻顏快受飛花雪遠山雪消
天如ㇾ醉ㇾ〻客指ニ一呼ㇾ富ニ思泠ㇾ於雪忽然和成
雪月皆可ㇾ醉此樓乍ㇾ麼獨醉ㇾ雪

醉雪樓遊宴の圖







萬松寺

黃山



白雪稲荷

万松寺の境内にあり。文政年中の勧請にて数百年かれし老白梅ある故白雪稲荷と標せり。尚門外女の姿にして傾城を買ひあきらめざる者をお小女郎と通称して毎初午の旅ひ改者と傾けり



亀岳山萬松寺

裏門前町にあり。曹洞宗。総持寺末。天文九年古渡城を織田信秀建立。大雲和尚と開山す。同二十年三月二日信秀未森の城より卒去せしかば、寺に葬り其法号萬松院桃巌通見と称せり。

かくて寺号に変ず。十五年津城に造営の後寺をこゝに移す。

今社小橋町にあり。

本尊

観音 服土長財 童子 八歳龍女

禅堂

佐良木郷長塚宮椎鐘 檀那 蒲田源左衛門藤原政負 慈航入道 祢宜藤原兼光 大工兵衛太郎藤原友次 結衆五十四人 文明七年乙未十月十八日

鐘楼

美濃國各務郡弓削田庄野寺藤原貞則 久地野伊泉入道 赤地新右衛門吉久 大永五年乙酉十二月廿日筆者明真。尾州那古野庄亀岳山萬松寺第四世住持比丘大宗播老拙寄附焉 天正歳念丙戌仲春殊如意日 開基

高原院君御墓

國祖君の御簾中浅野紀伊守幸長の淑女尚院君のそなびき給ひ法名高原院殿信仰により此寺に葬り奉る。

寺寶

小野の琴 言水院君のそなびき給ひ法名高原院殿信仰により此寺に葬り奉る。

鎮守

白雪稲荷

塔頭

福壽院 万年寺 永昌院 盛岩院

隠里

万松寺の裏門の南をいふ。昔一殿武雷命 手二殿 齋主命 手三殿 天津児屋根命 手四殿 姫大神 手五殿 市杵嶋姫命 手六殿 湍津姫命 手七殿 大地を掘り鉄沢の花ふきいでしこと。

春日社

太神南社ハ牧氏の修造なり。

例祭八月十八日 神楽

上工の名をはぶく

長榮精舍
九老尚齒
會之圖





金剛山長榮寺 (現取町北東側にあり曹洞宗 春日井郡三開村正眼寺末) 信長公は伯母長榮寺槃室榮公の室なり 尾州春日井郡河村城主牧大和守長義の妹なり 永祿年中清洲より當寺へ誕生佛八黄金にて洞作の兩龍口より水を注きそゝぐ世に云ふ灌佛之會 本尊 釈迦の座像

安永十年庚寅三月九日内藤閑水の僧にして府下高齢の九老会と寺に集會して各詩歌連俳と詠出す其人々は都

統高 字宗克号千秋俗称道喜一百四歳 詩賦 清水成利 號集木軒俗称将作 九十三歳 和歌 松平秀雲 字士龍号君山俗称太郎右衛門八十五歳 詩賦 僧景照 東界寺前住宇遠仙号幸山八十四歳 和歌 僧惠亂 當寺隠居宇定保号明星菴八十三歳 詩賦 小鹿存 字良興号無孔笛八十二歳 詩賦 横井並明 字伯懐号半歸菴称暮水又也有八十歳 和歌 永田忠良 号鳥集軒俗称古仙八十歳 俳句 僧覺融 天王坊前住宇宏道号白雲居八十歳 和歌 その外風雅人の書画詩歌との巨尚齒會記一巻を終して流布しまた明和六年十二月也有翁當寺に碑をたつ 行そも人は忘るもなきのみそかむなき 俳諧夢之進

海山梅香院 梅川町にあり浄土宗 元禄年中僧敬典中興開基 本尊 阿弥陀の座像

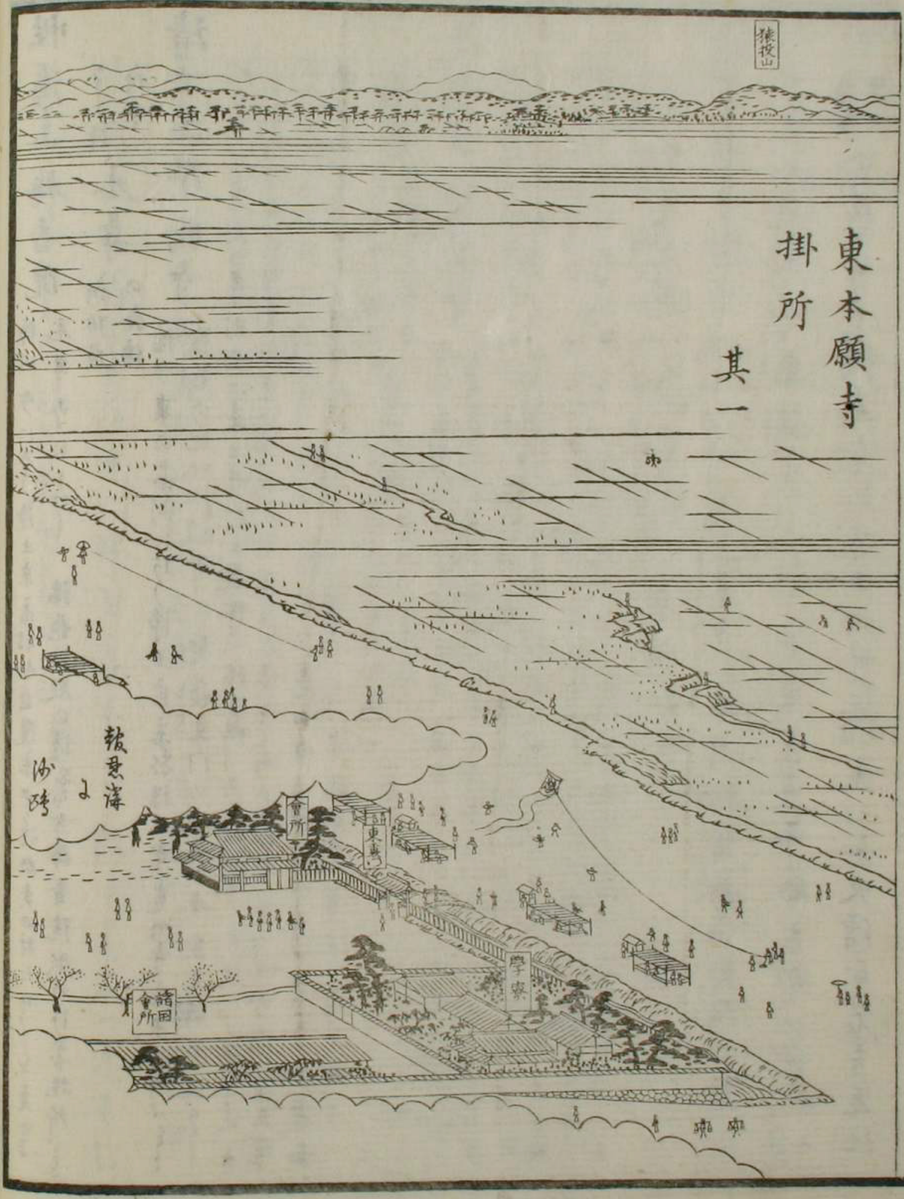
清涼山榮國寺 播州裏の赤例にあり浄土宗 元禄年中僧敬典中興開基 本尊 阿弥陀の座像 (此寺もと播州赤例にありて耶蘇宗門の凶徒一千余人滞留せしを豊臣太閤征伐の時悉く誅戮せられ空山となりしを寛文五年乙巳刑地を當日井郡土器野へ移し再興す 文政十三年庚寅六月十四日類焼せしを同六年癸未再建す 開山は播州赤例にありし時の住持なり 寺領三石 境内に阿弥陀の像と西光院の位牌を置く 陽龍院殿の法號を梅香院殿の法號と称す 赤例にありし時は赤例の城主小寺藤田寺と称し京都禄林寺は真準和尚を開山として藤田寺を改号して今は山号寺号をも通用す)

長嶌山崇覺寺 同町赤例にあり 末寺あり 開山は濱州九鬼の稚子 本像 天六の阿弥陀の 千人塚 加支丹の族を葬る

山号は嶌田家合戦の時在に逃一郎と称す 水谷藩の菩提寺なり 天正年中播州石高後出家して安生坊と称す 天正年中播州石寺藩に入るや寺領を賜ふ 後に戦死せしより一寺潰に及ぶ 法名と数珠とを授けて今に伝ふ 寛永年中南玉市下垣内町に移り 元禄年中又今の地に移る 本尊 三世同の木像

東本願寺掛所 播州にあり 天正九年八月僧祐賢海東教坂に村に一寺を建立して泉龍寺と号し慶長十年那古野の地(清須府の後築へ迁せらるゝ後東本願寺十六世の門主一如大僧正名古屋に

東本願寺掛所 其一



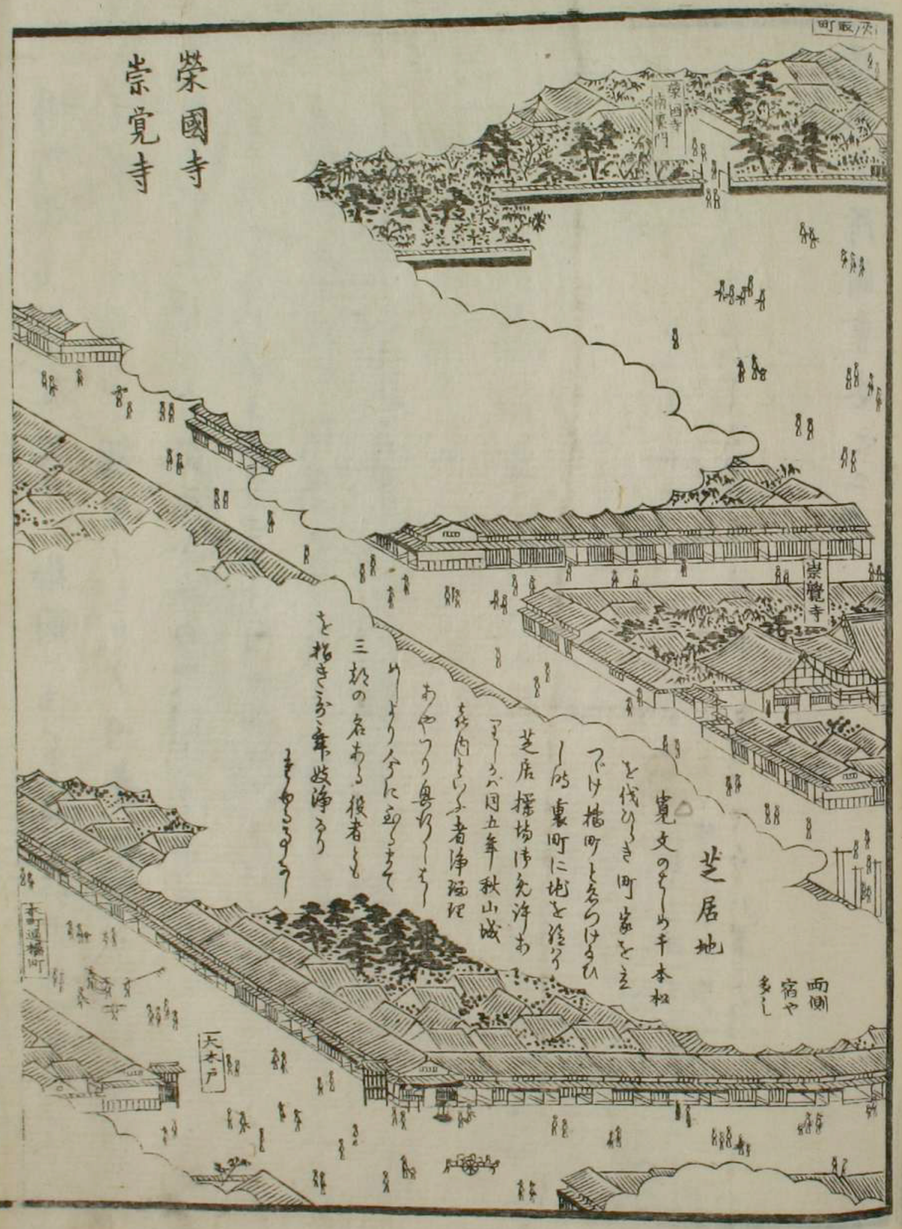


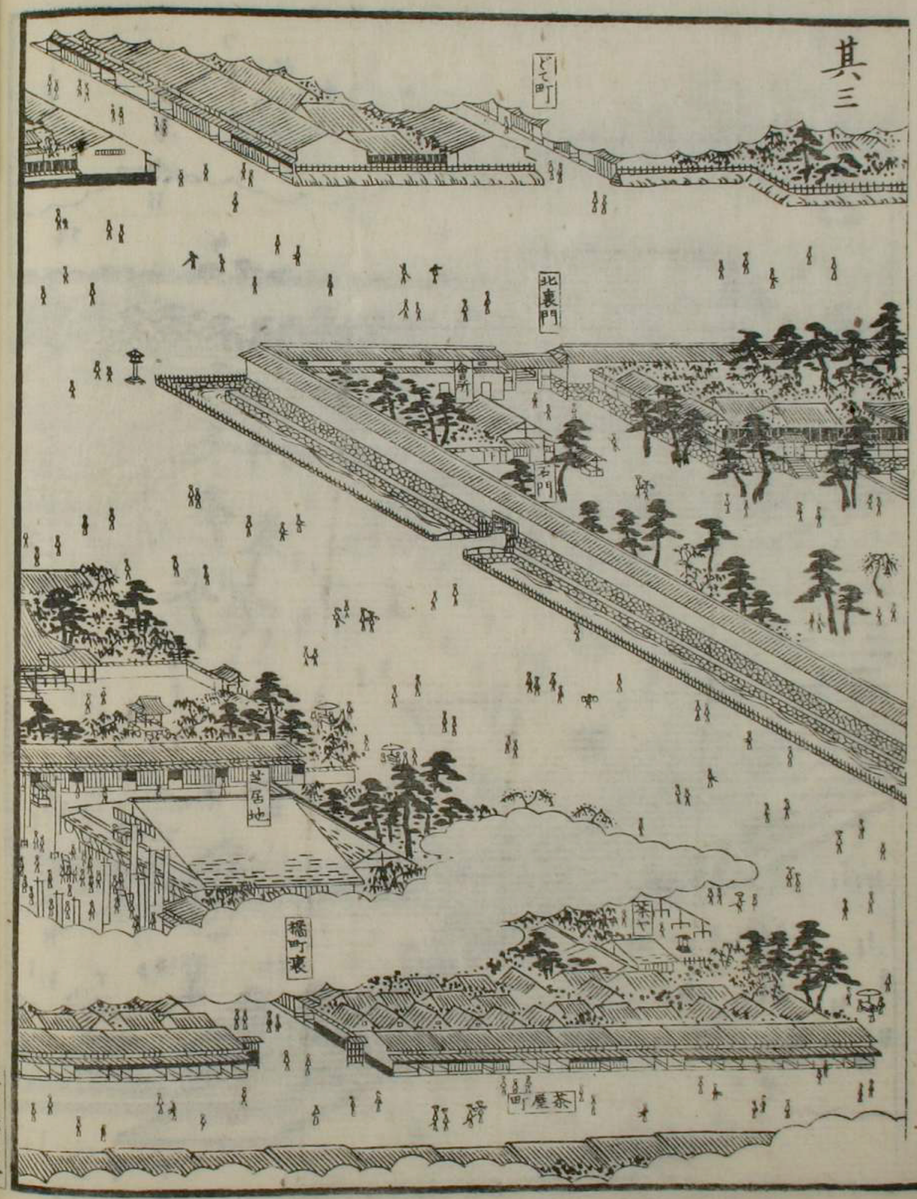
春秋楽
岳輪
あまつ
風おき

古建士城
天守台址
御下
新番所
大広間
番所
食堂
女間
御座間
御中奥
中之間
御書院
信長公
手植の松
山門
御会所
御会所
御中奥

庭雅

本堂
御廊下
御霊所
御廊下
茶所
手水や
大教場


榮國寺
崇覚寺
芝居地
西側宿や多し
寛文のころ千本松を伐りのき町家をつけ裏町に地を給ふ
芝居櫓場浄光寺あり
三枝の名ある役者ども
を招きおく事歟浄瑠璃
あやつり多かりしとて
今に至るまで
芝居通り町
天王戸


其三
北裏門
芝居地
櫓町裏
茶屋町

掛所営建の志願ありて　御國より許免ありて元禄三年七月より
下袋町泉龍寺を假寺として同年　十月古渡村の内ふく
境地清高の所ありて假所とし今の地に引つゞき同五年の冬移り始
舎を営みもつぱら同十三年四月十二日一如上人京都本山より遷化せらる
其子真如夫緒正の代同十九年十月廿八日経営事竟一本堂をもつぱら
法事おこなひ給ふ　真如上人の両基ともにして本願
一如上人を開山とせり　○本尊阿弥陀如来
　　石原正明
　　織田信長
古渡古城　東掛所境内の外ひがしの方にあり天文三年織田備後守信秀那古野の城にあり
　　長誕生のとき那古野の城は信長に譲り自ら古渡の城を築きて移住せり幸
　　にもつぱら掛所の境内ひろく信長記にも信長公をそだてそだ
　　則宗敬に　仰せ添へまでこもり堀を
　　古渡城ありしと有るは思ひやり違ひ洋なるべし紀行に記せり

尾張名所圖會巻之二　終